

定ム

2 合筆ヲ爲シタルトキハ合筆前ノ各筆ノ賃賃價格ヲ合算シタルモノヲ以テ其ノ賃賃價格トス

第三節 開 墾

第三十四條 本法ニ於テ開墾ト稱スルハ第二類地ヲ第一類地ト爲スヲ謂フ

第三十五條 開墾成功シタルトキハ土地所有者ハ三十日內ニ之ヲ稅務署長ニ申告スヘシ

第三十六條 開墾ニ著手シタル土地ニ付テハ土地所有者ノ申請ニ依リ開墾著手ノ年及其ノ翌年ヨリ二十年ノ開墾減租年期ヲ許可シ年期中ハ原地(開墾前ノ土地)相當ノ賃賃價格ニ依リ地租ヲ徵收ス但シ地類變換ヲ爲シタル後五年內ニ開墾ニ著手シタル土地ニ付テハ之ヲ許可セス

2 二十年內ニ成功シ能ハサル開墾地ニ付テハ前項ノ年期ハ開墾著手ノ年及其ノ翌年ヨリ四十年トス

3 前項ノ年期滿了スルモ尙地味成熟セサル土地ニ付テハ更ニ二十年內ノ年期延長ヲ許可スルコトヲ得

リ修正地目又ハ修正賃賃價格ニ依リ地租ヲ徵收ス

第四節 地目變換及地類變換

第四十四條 本法ニ於テ地目變換ト稱スルハ第一類地中又ハ第二類地中ノ各地目ヲ變更スルヲ謂ヒ地類變換ト稱スルハ第一類地ヲ第二類地ト爲スヲ謂フ

第四十六條 二十年內ニ成功シ能ハサル地目變換地ニ付テハ土地所有者ノ申請ニ依リ地目變換著手ノ年及其ノ翌年ヨリ四十年ノ地目變換減租年期ヲ許可シ年期中ハ原地(變換前ノ土地)相當ノ賃賃價格ニ依リ地租ヲ徵收ス

2 前項ノ年期滿了スルモ尙地味成熟セサル土地ニ付テハ更ニ二十年內ノ年期延長ヲ許可スルコトヲ得

3 宅地又ハ鑛泉地ニ變換スル土地ニ付テハ其ノ情況ニ依リ稅務署長ハ地目變換減租年期ヲ短縮スルコトヲ得

第四十八條 地目變換減租年期中ニ於テ其ノ原地又ハ變換地ニ付地目變換ヲ爲シタルトキハ其ノ地目ヲ修正スルモ其ノ賃賃價格ハ之ヲ修正セス

4 宅地又ハ鑛泉地ト爲ス開墾地ニ付テハ其ノ情況ニ依リ稅務署長ハ開墾減租年期ヲ短縮スルコトヲ得

第三十八條 開墾減租年期中ニ於テ開墾成功シタルトキ又其ノ成功地ニ付地目變換ヲ爲シタルトキハ其ノ地目ヲ修正スルモ其ノ賃賃價格ハ之ヲ修正セス

2 開墾減租年期中ニ於テ其ノ原地ニ付地目變換ヲ爲シタルトキ又ハ其ノ成功地ニ付地類變換ヲ爲シタルトキハ開墾減租年期ハ消滅ス

第四十條 開墾成功シタルトキハ(開墾減租年期中ナルト否トヲ問ハス)直ニ其ノ地目ヲ修正ス

第四十一條 開墾成功シタルトキハ開墾減租年期地ヲ除クノ外直ニ其ノ賃賃價格ヲ修正ス

2 開墾減租年期地ニ付テハ其ノ年期ノ滿了スル年ニ於テ其ノ賃賃價格ヲ修正ス但シ年期滿了スルモ尙開墾成功セサル土地ニ付テハ開墾成功シタルトキ直ニ其ノ賃賃價格ヲ修正ス

第四十三條 開墾ニ因リ地目又ハ賃賃價格ヲ修正シタル土地ニ付テハ其ノ修正ヲ爲シタル年ノ翌年度分ヨ

〔埼玉〕

〔埼玉〕

2 地目變換減租年期中ニ於テ地類變換ヲ爲シタルトキハ地目變換減租年期ハ消滅ス

第五十條 地目變換又ハ地類變換ヲ爲シタルトキハ地目變換減租年期中ナルト否トヲ問ハス)直ニ其ノ地目ヲ修正ス

第五十一條 地目變換又ハ地類變換ヲ爲シタルトキハ地目變換減租年期地ヲ除クノ外直ニ其ノ賃賃價格ヲ修正ス

2 地目變換減租年期地ニ付テハ其ノ年期ノ滿了スル年ニ於テ其ノ賃賃價格ヲ修正ス但シ年期滿了スルモ尙地目變換セサル土地ニ付テハ地目變換シタルトキ直ニ其ノ賃賃價格ヲ修正ス

第五十三條 地目變換又ハ地類變換ニ因リ地目又ハ賃賃價格ヲ修正シタル土地ニ付テハ其ノ修正ヲ爲シタル年ノ翌年度分ヨリ修正地目又ハ修正賃賃價格ニ依リ地租ヲ徵收ス

第五節 荒地稅租

第五十四條 本法ニ於テ荒地ト稱スルハ災害ニ因リ地



形ヲ變シ又ハ作土ヲ損傷シタル土地ヲ謂フ

第五十五條 荒地ニ付テハ納稅義務者ノ申請ニ依リ荒地ト爲リタル年及其ノ翌年ヨリ十五年内ノ荒地免租年期ヲ許可ス

2 前項ノ年期滿了スルモ尙荒地ノ形狀ヲ存スルモノニ付テハ更ニ十五年内ノ年期延長ヲ許可スルコトヲ得

3 海、湖又ハ河川ノ狀況ト爲リタル荒地ニ付テハ前項ノ延長年期ハ二十年内トス其ノ年期滿了スルモ尙海湖又ハ河川ノ狀況ニ在ルモノハ本法ノ適用ニ付テハ海、湖又ハ河川ト爲リタルモノト看做ス

第五十七條 荒地免租年期地ニ付テハ免租年期許可ノ申請アリタル後ニ開始スル納期ヨリ地租ヲ徵收セス

第五十八條 荒地免租期中ノ土地カ再ヒ荒地ト爲リ免租年期ノ許可ヲ受ケタルトキハ前ノ年期ハ消滅ス

第五十九條 開拓減租年期、埋立免租年期、開墾減租年期又ハ地目變換年期中ノ土地ニ付荒地免租年期ヲ許可シタルトキハ其ノ許可ヲ爲シタル年ヨリ荒地免

租年期滿了ニ至ル迄ハ開拓減租年期、埋立免租年期、開墾減租年期又ハ地目變換減租年期ハ其ノ進行ヲ止ム

2 前項ノ規定ハ他ノ法律ニ依リ一定ノ期間地租ノ全部又ハ一部ヲ免除シタル土地ニ付荒地免租年期ヲ許可シタル場合ニ之ヲ準用ス

第六十條 荒地免租年期中ニ於テ地目變換、地類變換又ハ開墾ニ該當スル土地ノ異動アルモ地目變換地類變換又ハ開墾ナキモノト看做ス此ノ場合ニ於テハ免租年期ノ滿了スル年ニ於テ其ノ地目ヲ修正ス

第六十二條 荒地免租年期地ニ付テハ其ノ年期ノ滿了スル年ニ於テ其ノ賃貸價格ヲ設定ス

第六十四條 荒地免租年期ノ滿了ニ因リ賃貸價格ヲ設定シタル土地ニ付テハ其ノ設定ヲ爲シタル年ノ翌年分ヨリ地租ヲ徵收ス

第三章 災害地免租

第六十五條 北海道又ハ府縣ノ全部又ハ一部ニ亘ル災害又ハ天候不順ニ因リ收穫皆無ニ歸シタル田畑ニ付

〔埼玉〕

〔埼玉〕

テハ納稅義務者ノ申請ニ依リ其ノ年分地租ハ之ヲ免除ス

第六十六條 地目變換若ハ開墾成功ノ申告アリタル土地又ハ耕地整理工事を完了シ賃貸價格配賦ノ申出アリタル土地ニシテ未ダ土地臺帳ヲ更正セサルモノニ付テハ其ノ成功地目カ田畑ナルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ前條ノ規定ヲ準用ス

第六十七條 前二條ノ規定ニ依リ地租ノ免除ヲ受ケントスル者ハ被害現狀ノ存スル間ニ於テ其ノ事實ヲ明ニシテ稅務署長ニ申請スヘシ

第六十八條 前條ノ申請アリタルトキハ被害ノ調査中其ノ年分地租ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

第六十九條 第六十五條又ハ第六十六條ノ規定ニ依リ免除シタル地租ハ法律上總テノ納稅資格中ヨリ之ヲ控除セス

第四章 自作農地免租

第七十條 田畑地租ノ納期開始ノ時ニ於テ納稅義務者(法人ヲ除ク)ノ住所都市町村及隣接市町村内ニ於ケ

ル田畑賃貸價格ノ合計金額カ其ノ同居家族ノ分ト合算シ二百圓未滿ナルトキハ納稅義務者ノ申請ニ依リ其ノ田畑ノ當該納期分地租ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ免除ス且シ小作ニ付シタル田畑ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

2 民法施行前ヨリ引續キ存スル永小作權ニ付其ノ設定ノ當時舊來ノ慣行ニ依リテ小作料支拂ノ外當該田畑ノ地租ノ全額ヲ永小作權者ニ於テ負擔スルコトヲ約シタル田畑ニ關シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ永小作權者ヲ所有者ト看做シテ前項ノ規定ヲ適用ス

第七十一條 前條ノ規定ニ依リ地租ノ免除ヲ受ケントスル者ハ毎年三月中ニ住所都市町村ヲ經由シ稅務署長ニ申告スヘシ

2 期項ノ申請期間經過後新ニ前條ノ規定ニ該當スルニ至リタル田畑ニ付テハ次ノ納期開始前ニ於テ前項ノ申請ヲ爲スコトヲ得

第五章 地租徵收

七十二條 稅務署長ハ土地ノ異動其ノ他地租徵收ニ



關シ必要ト認ムル事項ヲ市町村ニ通知スヘシ

第七十三條 地租ハ各納稅義務者ニ付同一市町村ニ於ケル同一地目ノ賃貸價格ノ合計金額ニ依リ算出シ之ヲ徵收ス但賃貸價格ノ合計金額カ一回ニ滿タサルトキハ地租ヲ徵收セス

2 田、畑、宅地、以外ノ土地ハ之ヲ同一地目ノ土地ト看做シテ前項ノ規定ヲ適用ス

第七十四條 市町村ハ地租ノ納期毎ニ其ノ納期開始前十五日迄ニ賃貸價格及地租ノ總額並ニ其ノ各納期ニ於ケル納額ヲ稅務署長ニ報告スヘシ但シ前報告後異動ナキトキハ此ノ限ニ在ラス

2 前項ノ報告後納期開始迄ニ報告事項ニ異動ヲ生シタルトキハ直ニ其ノ異動額ヲ稅務署長ニ報告スヘシ

第七十五條 市町村ハ第七十條ノ規定ニ依リ地租ヲ免除スル田畑賃貸價格ノ總額ヲ前條ノ例ニ準シ稅務署長ニ報告スヘシ

第七十六條 大藏大臣ハ稅務署長又ハ其ノ代理官ヲシテ隨時市町村ニ於ケル國稅徵收ニ關スル事務ヲ監督

セシムヘシ

第六章 雜則

第七十七條 他ノ法律ニ依リ一定ノ期間地租ヲ免除シタル土地ニ付テハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外第五十七條及第六十條乃至第六十四條ノ規定ヲ準用ス

第七十八條 稅務署長土地ノ異動ニ因リ地番、地目、地積又ハ賃貸價格ヲ土地臺帳ニ登錄シタルトキ又ハ登錄ヲ變更シタルトキハ土地所有者及納稅義務者ニ通知スヘシ

第七十九條 納稅義務者其ノ土地所在ノ市町村内ニ現住セサルトキハ地租ニ關スル事項ヲ處理セシムル爲メ其ノ市町村内ニ現住スル者ニ就キ納稅代理人ヲ定メ當該市町村長ニ申告スヘシ

第八十條 本法ニ依リ申告ヲ爲スヘキ義務ヲ有スル者其ノ申告ヲ爲サス仍テ地租ニ不足額アルトキハ直ニ之ヲ徵收ス

第八十五條 第二條ノ規定ニ依リ地租ヲ徵收スル場合ニ於テハ第七十三條ノ規定ニ拘ラス當該土地一筆毎

ニ其ノ地租ヲ算出ス

第八十七條 市制第六條又ハ第八十二條第三項ノ市ニ於テハ本法中市ニ關スル規定ハ區ニ市長ニ關スル規定ハ區長ニ之ヲ適用ス

2 町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ本法中町村ニ關スル規定ハ町村ニ準スヘキモノニ町村長ニ關スル規定ハ町村長ニ準スヘキモノニ之ヲ適用ス

第八十八條 本法ハ國有地ニ之ヲ適用セス

第八十九條 府縣、市町村其ノ他ノ公共團體ハ第二條ノ規定ニ依リ地租ヲ課セサル土地ニ租稅其ノ他ノ公課ヲ課スルコトヲ得ス但シ所有者以外ノ者同條第一號又ハ第二號ノ土地ヲ使用收益スル場合ニ於テ其ノ土地ニ付使用者ニ租稅其ノ他ノ公課ヲ課スルハ此ノ限ニ在ラス

附則

第九十條 本法ハ昭和六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ昭和六年分地租ニ限リ第十條ノ規定中百分ノ三・八トアルハ百分ノ四、第十一條ノ規定中宅地租第一

〔埼玉〕

期其ノ年七月一日ヨリ三十一日限トアルハ其ノ年十一月一日ヨリ三十一日限、其ノ他第一期其ノ年九月一日ヨリ三十一日限トアルハ翌年一月一日ヨリ三十一日限、其ノ他第二期其ノ年十一月一日ヨリ三十一日限、其ノ他第三期其ノ年三月一日ヨリ三十一日限、第七十一條第一項ノ規定中三月中トアルハ十二月中トス

第九十二條 土地賃貸價格調査法ニ依リ賃貸價格ノ調査ヲ爲シタル土地ニ付テハ同法ニ依リ調査シタル賃貸價格ヲ以テ本法施行ノ際ニ於ケル賃貸價格トス但シ其ノ賃貸價格ニ依リ算出シタル本法ノ地租額カ舊法ノ地租額ノ三倍八割ヲ超ユル土地ニ在リテハ舊法ノ地租額ノ三倍八割ニ相當スル金額ヲ百分ノ三・八ヲ以テ除シタル金額ヲ以テ其ノ賃貸價格トス

第九十三條 大正十五年四月一日後本法施行前ニ於テ地價ヲ設定シ又ハ修正シタル土地（免租年期又ハ低價年期ノ滿了ニ因リ原地價ニ復シタルモノヲ含ム）ニ付テハ第九條第三項ノ例ニ準シ其賃貸價格ヲ定ム

2 大正十五年四月一日後本法施行前ニ於テ分筆又ハ合



筆ヲ爲シタル土地ニ付テハ第三十三條ノ例ニ準シ前  
條ノ賃貸價格ヲ配分又ハ合算シテ其ノ賃貸價格ヲ定

ム

第九十四條 舊法ニ依リ低價年ノ許可ヲ受ケタル土

地ニシテ本法施行ノ際未ダ原地價ニ復セサルモノニ

付テハ第九條第三項ノ例ニ準シ其ノ賃貸價格ヲ定ム

第九十五條 前三條ノ規定ニ依リ賃貸價格ヲ定メタル

土地ニ付テハ昭和六年分ヨリ本法ニ依リ地租ヲ徴収

ス

第九十六條 本法施行前ニ於ケル土地ノ異動中本法施

行ノ際未ダ舊法ニ依リ地價ノ設定又ハ修正其ノ他ノ

處分ヲ爲ササルモノニシテ本法中之ニ相當スル規定

アルモノニ關シテハ本法ヲ適用ス但シ第九十一條規

定ノ規定ノ適用ヲ妨ケス

第九十八條 舊法ニ依リ開墾ノ届出アリタル土地ニシ

テ本法施行ノ際開墾著手後未ダ二十年ヲ経過セサル

モノハ第三十六條第一項ノ規定ニ依リ開墾減租年

ヲ許可セラレタルモノト看做ス但シ地類變換ヲ爲シ

タル後五年内ニ開墾ヲ爲シタル土地ニ付テハ此ノ限

ニ在ラス

第九十九條 舊法ニ依リ免租年、減下年、又ハ地價

据置年ノ許可ヲ受ケタル土地ニシテ本法施行ノ際

未ダ其ノ年ノ満了セサルモノハ左ノ區分ニ從ヒ本

法ニ依リ免租年、又ハ減租年ノ許可セラレタルモ

ノト看做ス

一 地租條例第十六條第三項ノ減下年ハ第三十六

條第二項ノ開墾減租年トス

二 地租條例第十六條第四項ノ減下年ハ第十九條

第一項ノ開墾減租年トス

三 地租條例第十六條第五項ノ新開免租年ハ第二

十條第一項ノ埋立免租年トス

四 地租條例第十六條第六項ノ地價据置年ハ第四

十六條第一項ノ地目變換減租年トス

五 明治三十四年法律第三十號ノ年延長ハ前各號

ノ例ニ準シ第十九條第二項、第二十條第二項、第

三十六條第三項又ハ第四十六條第二項ノ年延長

〔埼玉〕

トス

六 地租條例第二十條ノ荒地免租年ハ第五十五條

第一項ノ荒地免租年トス

七 地租條例第二十三條又ハ第二十四條ノ免租年

期ハ荒地ノ種類ニ從ヒ第五十五條第二項又ハ第三

項ノ年延長トス

二 前項ノ年延長ハ舊法ニ依リ許可セラレタル年ノ殘年

期間ノ経過スル年ノ翌年ニ於テ滿了ス

●地租法施行規則抄

(昭和六年四月一日  
勅令第四十七號)

第一章 總則

第一條 地租法第二條第一號及第二號ノ規定ニ依リ左

ノ公共團體ヲ指定ス

- 一 府縣組合、市町村組合、町村組合、市町村内ノ  
區、北海道地方費
- 二 市町村學校組合、町村學校組合、學區

地租法施行規則抄

〔埼玉〕

三 水利組合、水利組合聯合、北海道土地組合

第三章 災害地免租

第十條 災害地免租ノ申請ヲ爲ス者ハ稅務署長ノ承認

ヲ受ケル迄收穫皆無ノ事實ヲ證スルニ足ルヘキ作毛

ヲ設置スヘシ

第十一條 地租法第六十六條ノ規定ニ依ル地租ノ免除

ハ左ノ各號ノ定ムル所ニ依ル

一 地目變換地又ハ開墾地ニ在リテハ原地(變換又

ハ開墾前ノ土地)ノ地租ヲ免除ス

二 耕地整理地ニ在リテハ收穫皆無ニ歸シタル換地

ニ相當スル從前ノ土地ノ地租ヲ免除ス

第四章 自作農地免租

第十二條 地租法第七十條第二項ニ規定スル永小作權

者ニシテ同條第一項ノ規定ノ適用ヲ受ケントスル者

ハ毎年三月中ニ左ノ事項ヲ田畑所在ノ市町村長ニ申

告スヘシ

一 永小作權ノ目的タル田畑ノ所在、地番、地目、

地積及賃貸價格



地租法施行規則 抄

二 田畑所有者ノ住所及氏名  
 三 永小作權設定ノ年月日  
 前項ノ申告期間經過後新ニ地租法第七十條第一項ノ規定ニ該當スルニ至リタル場合ニ於テハ次ノ納期開始前ニ於テ前項ノ申告ヲ爲スコトヲ得  
 第十三條 市町村長ニ於テ必要アリト認ムルトキハ前段ノ申告ヲ爲シタル者ニ對シ永小作權ノ設定ヲ證スヘキ證書其ノ他必要ナル書類ノ呈示又ハ提出ヲ求ムルコトヲ得  
 第十四條 第十二條ノ申告ヲ爲シタル永小作權者ハ地租法第七十條第一項ノ規定ノ適用ニ關シテハ之ヲ當該田畑ノ所有者ト看做ス  
 第十五條 地租法第七十一條ノ規定ニ依ル地租免除ノ申請書ニハ土地ノ所在、地番及地目ヲ記載スヘシ但シ申請者カ其ノ住所及隣接市町村内ニ於ケル自己ノ田畑ノ全部ニ付申請ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ旨ヲ記載シ各筆ノ記載ヲ省略スルコトヲ得  
 第十六條 市町村ハ其ノ市町村内ニ於ケル田畑ニ付地

租ヲ納ムヘキ者(地租法第七十條第二項ノ規定ニ依リ所有者ト看做サレタル永小作權者ヲ含ム)ノ住所カ隣接市町村内ニ在ルトキハ各人別田畑ノ賃賃價格合計金額ヲ毎年三月中ニ其ノ住所市町村ニ通知スヘシ  
 2 前項ノ通知後田畑地租ノ各納期開始迄ニ通知事項ニ異動ヲ生シタルトキハ直ニ之ヲ住所市町村ニ通知スヘシ  
 第十七條 市町村ハ隣接市町村内ノ田畑ニ付地租法第七十一條ノ申請ヲ受ケタル場合ニ於テ申請者ノ住所市町村及隣接市町村内ニ於ケル田畑賃賃價格ノ合計金額カ其ノ同居家族ノ分ト合算シ二百圓未満ナルトキハ其ノ旨ヲ田畑所在ノ市町村ニ通知スヘシ  
 前項ノ通知後田畑地租ノ各納期開始ノ時迄ニ通知事項ニ異動ヲ生シタルトキハ之ヲ田畑所在ノ市町村ニ通知スヘシ  
 第五章 地租徵收  
 第十八條 市町村ハ其ノ市町村内ノ田畑ニ付地租法第

大正九年七月三十一日  
 法律第十一號  
 大正十五年三月現在

七十一條ノ申請又ハ前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ同法第七十條ノ規定ニ依リ地租ヲ免除スル田畑ヲ調査シ同法第七十五條ノ通知ヲ爲スヘシ  
 第十九條 市町村ハ其ノ市町村内ノ土地ニ付土地臺帳ノ副本及地租名寄帳ヲ設備スヘシ  
 2 地租名寄帳ニ關シ必要ナル事項ハ大藏大臣之ヲ定ム  
 第六章 雜則  
 第二十一條 地租法第七十八條ノ規定ニ依ル通知及減租又ハ免租ノ申請ニ對スル許可ノ通知ハ土地所在ノ市町村ヲ經由スヘシ  
 第二十二條 市制第六條又ハ第八十二條第三項ノ市ニ於テハ本令中市ニ關スル規定ハ區ニ市長ニ關スル規定ハ區長ニ之ヲ適用ス  
 2 町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ本令中町村ニ關スル規定ハ町村ニ準スヘキモノニ、町村長ニ關スル規定ハ町村長ニ準スヘキモノニ之ヲ適用ス

所得稅法 抄

所得稅法 抄

第一條 本法施行地ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上以上所ヲ有スル者ハ本法ニ依リ所得稅ヲ納ムル義務アルモノトス  
 第三條 所得稅ハ左ノ所得ニ付之ヲ賦課ス  
 第一種  
 甲 法人ノ普通所得  
 乙 法人ノ超過所得  
 丙 法人ノ清算所得  
 第二種  
 甲 本法施行地ニ於テ支拂ヲ受ケル公債、社債若ハ銀行預金ノ利息又ハ貸付信託ノ利益  
 第一條ノ規定ニ該當セサル者ノ本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ヨリ受ケル利益若ハ利息ノ配當、剩餘金ノ分配又ハ利益若ハ剩餘金ノ處分タル賞與若ハ賞



與ノ性質ヲ有スル給與

第三種

第二種ニ屬セサル個人ノ所得

第十二條 合併後存続スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ハ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ所得ニ付所得稅ヲ納ムル義務アルモノトス

第十七條 北海道府縣市町村其ノ他命令ヲ以テ指定スル公共團體、神社、寺院、祠宇、佛堂及民法第三十四條ノ規定ニ依リ設立シタル法人ニハ所得稅ヲ課セス

第十八條 第三種ノ所得ニシテ左ノ各號ニ該當スルモノニハ所得稅ヲ課セス

- 一 軍人從軍中ノ俸給及手當
- 二 扶助料及傷疾疾病者ノ恩給又ハ退職料
- 三 旅費、學資金及法定扶養料
- 四 郵便貯金、產業組合貯金及銀行貯蓄預金ノ利子
- 五 營利ノ事業ニ屬セサル一時ノ所得
- 六 日本ノ國籍ヲ有セサル者ノ本法施行地外ニ於ケ

ル資産、營業又ハ職業ヨリ生スル所得

第十九條 勅令ヲ以テ指定シタル重要物産ノ製造業ヲ營ム者ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ開業ノ年及其ノ翌年ヨリ三年間其ノ業務ヨリ生スル所得ニ付所得稅ヲ免除ス

第二十條 第三種ノ所得ハ千二百圓ニ滿タサルトキハ所得稅ヲ課セス第十五條、第十六條及第十六條ノ三ノ規定ニ依リ控除ヲ爲シタル爲千二百圓ニ滿タサルニ至リタルトキ亦同シ

第二十一條 第一種ノ所得ニ對スル所得稅ハ左ノ稅率ニ依リ之ヲ賦課ス

- 甲 普通所得
- 乙 本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人

百分ノ五

本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有セサル

〔埼玉〕

法人

百分ノ十

乙 超過所得

超過所得金額ヲ左ノ各級ニ區分シ遞次ニ各稅率ヲ適用ス

普通所得金額中資本金額ニ對シ年百分ノ十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額

百分ノ四

同 百分ノ二十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ

超ユル金額

百分ノ十

同 百分ノ三十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ

超ユル金額

百分ノ二十

丙 清算所得

清算所得金額ヲ左ノ如ク區分シ各稅率ヲ適用ス

積立金又ハ本法其ノ他ノ法律ニ依リ所得稅額ヲ課セラレサル所得ヨリ成ル金額

百分ノ五

其ノ他ノ金額

百分ノ十

法人カ各事業年度ニ於テ納付シタル第二種ノ所得ニ對スル所得稅額ハ命令ノ定ムル所ニ依リ當該事業年

〔埼玉〕

度ノ第一種ノ所得ニ對スル所得稅額ヨリ之ヲ控除ス

3 前項ノ場合ニ於テ控除スヘキ第二種ノ所得ニ對スル所得稅ハ第一種ノ所得計算上之ヲ損金ニ算入セス

4 前二項ノ規定ハ法人ノ清算所得ニ對スル所得稅ニ付之ヲ準用ス

第二十一條ノ二 同族會社カ各事業年度ニ於テ留保シタル金額中左ノ各號ノ一ニ該當スル金額アルトキハ

政府ハ其ノ事業年度ノ普通所得ヲ年額ニ換算シタル金額中五萬圓以下ノ金額ニ百分ノ十、五萬圓ヲ超ユル金額ニ百分ノ十五、十萬圓ヲ超ユル金額ニ百分ノ二十、五拾萬圓ヲ超ユル金額ニ百分ノ二十五、百萬圓ヲ越ユル金額ニ百分ノ三十ヲ乘シタル合計金額ノ

普通所得年額ニ對スル割合ヲ求メ之ヲ稅率トシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル金額(各號共ニ該當スル場合ニハ其ノ多額ナル一方)ニ付適用シテ算出シタル稅

額ヲ普通所得ニ對スル所得稅ニ加算スルコトヲ得

一 事業年度ノ普通所得中留保シタル金額カ其ノ事業年度ニ於ケル普通所得ノ十分ノ三ニ相當スル



所得稅法 抄

三七二

金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額  
 二 事業年度末ニ於ケル積立金及其ノ事業年度ノ普通所得中留保シタル金額ノ合計カ其ノ事業年度末ニ於ケル拂込株式金額又ハ出資金額ノ二分ノ一ニ相當スル金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額但シ其ノ事業年度末ニ於ケル積立金カ拂込株式金額又ハ出資金額ノ二分ノ一ヲ超過スル場合ニ於テハ其ノ超過額ハ之ヲ控除ス

本法ニ於テ同族會社ト稱スルハ株主又ハ社員ノ一人及之ト親族、使用人等特殊ノ關係アル者ノ株式金額又ハ出資金額ノ合計カ其ノ法人ノ株式金額又ハ出資金額ノ二分ノ一以上ニ相當スル法人ヲ謂フ

第二十四條 第一種ノ所得ニ付納稅義務アル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ財産目錄、貸借對照表、損益計算書又ハ清算若ハ合併ニ關スル計算書並第四條乃至第十一條ノ規定ニ依リ計算シタル所得及資本金額ノ明細書ヲ添付シ其ノ所得ヲ政府ニ申告スヘシ但シ本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有セサル法人ハ本

法施行地ニ於ケル資産又ハ營業ニ關スル損益ヲ計算シタル所得及其資本金額ノ明細書ヲ添付スヘシ  
 前項ノ規定ハ第一種ノ所得ニ付所得稅ヲ課セラルヘキ法人ニ付其ノ所得ナキ場合ニ之ヲ準用ス  
 第二十六條 第一種ノ所得金額ハ第二十四條ノ申告ニ依リ申告ナキトキ又ハ申告ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定シ第二種ノ所得金額ハ所得調査委員會ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス

所得調査委員會閉會後第三種ノ所得ノ決定ニ付脱漏アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ決定ヲ爲スヘカリシ年ノ翌年ニ於ケル所得調査委員會ノ調査ニ依リ政府ニ於テ其ノ所得金額ヲ決定スルコトヲ得

所得調査委員會閉會後第三種ノ所得ヲ有スル者納稅義務アルコトヲ申出テ又ハ納稅義務者所得金額ノ増加アルコトヲ申出テタルトキハ前二項ノ規定ニ拘ラヌ政府ニ於テ其ノ所得金額ヲ決定ス  
 第五十一條 五月三十一日迄ニ所得調査委員會成立セ

〔埼玉〕

〔埼玉〕

サルトキハ政府ニ於テ所得金額ヲ決定ス  
 所得調査委員會開會ノ日ヨリ第四十六條ノ期間内又ハ五月三十一日迄ニ調査結了セサルトキハ政府ニ於テ調査未済ノ所得金額ヲ決定ス

第五十二條 政府ハ所得調査委員會ノ決議ヲ不當ト認ムルトキハ七日以内ノ期間ヲ定メ之ヲ再調査ニ付ス仍其ノ決議ヲ不當ト認ムルトキ又ハ再調査期間内ニ調査結了セサルトキハ政府ニ於テ所得金額ヲ決定ス

第五十九條 第二十六條、第五十一條若ハ第五十二條ノ規定ニ依リ第一種若ハ第三種ノ所得金額ヲ決定シタルトキ又ハ第二十一條ノ二ノ規定ニ依リ稅額ヲ加算シタルトキハ政府ハ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

本法施行地内ニ住所又ハ居所ヲ有セサル納稅義務者納稅管理人ノ申告ヲ爲ササルトキハ前項ノ通知ハ公告ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テ公告ノ初日ヨリ七日ヲ經過シタルトキハ其ノ通知アリタルモノト看做ス

第六十條 納稅義務者前條ノ規定ニ依リ政府ノ通知シ

所得稅法 抄

三七三

タル所得金額又ハ加算稅額ニ對シテ異議アルトキハ通知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ不服ノ事由ヲ具シ政府ニ審査ノ請求ヲ爲スコトヲ得

前項ノ請求アリタル場合ト雖政府ハ税金ノ徵收ヲ猶豫セス  
 第六十一條 前條第一項ノ請求アリタルトキハ所得審査委員會ノ決議ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス

所得審査委員會ハ前條第一項ノ請求ヲ爲シタル者ニ對シ其ノ所得ニ關スル事實ヲ質問スルコトヲ得

第五十二條ノ規定ハ所得審査委員會ノ決議ニ之ヲ準用ス  
 第六十四條 第三種ノ所得ニ付納稅義務アル者第十四條第一項第五號及第六號ノ所得額二分ノ一以上ヲ減損シタルトキハ政府ニ所得金額ノ更訂ノ請求ヲ爲スコトヲ得但シ翌年一月三十一日ヲ過キタルトキハ此ノ限ニ在ラス

所得金額決定後相續、贈與又ハ營業繼續ニ因リ所得金額ヲ減損シタル場合ニハ前項ノ規定ヲ適用セス



所得稅法 抄

三七四

第六十五條 前條第一項ノ請求アリタルトキハ政府ハ所得金額ヲ查覈シ二分ノ一以上ノ減損アルトキハ之ヲ更訂ス

第六十七條 第一種ノ所得ニ付テハ事業年度毎ニ所得稅ヲ徵收ス但シ清算所得ニ付テハ清算又ハ合併ノ際之ヲ徵收ス

2 第二種ノ所得ニ付テハ其ノ金額支拂ノ際支拂者其ノ所得稅ヲ徵收シ翌月十日迄ニ之ヲ政府ニ納ムヘシ

3 第三種ノ所得ニ付テハ所得稅ノ年額ヲ四分シ左ノ四期ニ於テ之ヲ徵收ス但シ納稅義務著納稅管理人ノ申告ヲ爲サスシテ本法施行地外ニ住所又ハ居所ヲ移ストキハ直ニ其ノ所得稅ヲ徵收スルコトヲ得

- 第一期 其ノ年七月一日ヨリ三十一日限
- 第二期 其ノ年十月一日ヨリ三十一日限
- 第三期 翌年一月一日ヨリ三十一日限
- 第四期 翌年三月一日ヨリ三十一日限

第六十九條 法人解散シタル場合ニ於テ清算所得ニ對スル所得稅又ハ前條ノ規定ニ依リ徵收セララルル税金

〔埼玉〕

ヲ納付セスシテ殘餘財産ヲ分配シタルトキハ其ノ税金ニ付清算人連帶シテ納稅ノ義務アルモノトス

第七十條 第六十四條第一項ノ請求アリタルトキハ政府ハ更訂處分ノ確定スルニ至ル迄税金ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

七十二條 第三種ノ所得ニ對スル所得稅ハ納稅義務者ノ住所、住所ナキトキハ居所地ヲ以テ納稅地トス但シ住所以外ニ在ル者ハ申告シテ居所地ニ於テ所得稅ヲ納ムルコトヲ得

2 本法施行地ニ住所及居所ナキ者ハ納稅地ヲ定メ政府ニ申告スヘシ申告ナキトキハ政府其ノ納稅地ヲ指定ス

第七十四條 詐偽其ノ他不正ノ行爲ニ因リ所得稅ヲ逃脫シタル者ハ其ノ逃脫シタル税金ノ三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處ス但シ自首シタル者又ハ稅務署長ニ申出テタル者ハ其ノ罪ヲ問ハス

2 前項ノ場合ニ於テ第三種ノ所得ニ付所得稅ヲ逃脫シタル者ノ所得金額ハ第二十六條第二項ノ規定ニ拘ラ

ス政府ニ於テ之ヲ決定シ直ニ其ノ税金ヲ徵收ス

●所得稅法施行規則 抄

大正九年七月三十一日  
勅令第一二二六號  
昭和五年一月現在

第六條 所得稅法第二十一條第二項又ハ第四項ノ規定

ニ依リ第一種ノ所得稅額ヨリ控除スヘキ第二種ノ所得稅額中公債又ハ社債ニ對スルモノハ其ノ公債又ハ社債ヲ所有シタル期間ノ利子ニ對スルモノニ限ル

2 前項ノ公債又ハ社債ヲ所有シタル期間ノ利子ニ對スル第二種所得稅額ハ其ノ納付シタル第二種ノ所得稅額ヲ其ノ公債又ハ社債ヲ所有シタル期間ノ利子額ト所有セサリシ期間ノ利子額トニ案分シテ之ヲ計算ス

第六條ノ二 所得稅法第二十一條第二項又ハ第四項ノ規定ニ依リ第一種ノ所得稅額ヨリ第二種ノ所得稅額ノ控除ヲ受ケムトスル者ハ所得稅法第二十四條ノ申告ト同時ニ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スヘシ

所得稅法施行規則 抄

三七五

〔埼玉〕

2 前項ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ第二種ノ所得ノ種類別ニ其ノ利子又ハ利益、納付シタル稅額及控除ヲ受ケヘキ稅額ニ關スル明細書ヲ提出スヘシ

第十二條 左ニ掲クル公共團體ニハ所得稅法第十七條ノ規定ニ依リ所得稅ヲ課セス

- 一 府縣組合、市町村組合、町村組合、市町村内ノ區及部、北海道地方費、市町村學校組合、町村學校組合、學區、水利組合、水利組合聯合會、耕地整理組合、耕地整理組合聯合會、北海道土功組合、重要物產同業組合、重要物產同業組合聯合會、森林組合、酒造組合、酒造組合聯合會、水產組合、水產組合聯合會、外國領海水產組合、外國領海水產組合聯合會、畜產組合、畜產組合聯合會、農會、商業會議所其他此等ノ公共團體ニ準スヘキモノ

二 朝鮮、臺灣、關東州又ハ樺太ノ公共團體ニシテ各其ノ他ノ法令ニ依リ所得稅ヲ課セサルモノト指定セラレタルモノ



營業收益稅法

三七六

第三十七條 稅務署長所得稅法第二十六條、第五十一條、第五十二條若ハ第七十四條第二項ノ規定ニ依リ所得金額ヲ決定シタルトキ又ハ所得稅法第二十一條ノ二ノ規定ニ依リ稅額ヲ加算シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

第五十九條 稅務監督局長所得稅法第六十一條ノ規定ニ依リ所得金額又ハ加算稅額ヲ決定シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ  
第六十二條 稅務署長所得稅法第六十五條ノ規定ニ依リ所得金額ヲ更訂シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

●營業收益稅法

大正十五年三月二十七日  
法律 第十一號

沿革 昭和六年法律第四十七號改正

第一條 本法施行地ニ本店、支店其ノ他ノ營業場ヲ有スル營利法人ニハ本法ニ依リ營業收益稅ヲ課ス

- 第二條 本法施行地ニ營業場ヲ有シ左ニ掲クル營業ヲ爲ス個人ニハ本法ニ依リ營業收益稅ヲ課ス
- 一 物品販賣業（動植物其ノ他普通ニ物品ト稱セサルモノノ販賣ヲ含ム）
  - 二 銀行業
  - 三 無盡業
  - 四 金錢貸付業
  - 五 物品貸付業（動植物其ノ他普通ニ物品ト稱セサルモノノ貸付ヲ含ム）
  - 六 製造業（瓦斯電氣ノ供給、物品ノ加工修理ヲ含ム）
  - 七 運送業（運送取扱ヲ含ム）
  - 八 倉庫業
  - 九 請負業
  - 十 印刷業
  - 十一 出版業
  - 十二 寫眞業
  - 十三 席貸業

〔埼玉〕

十四 旅人宿業（下宿ヲ含ミ本質宿ヲ含マヌ）

十五 料理店業

十六 周旋業

十七 代理業

十八 仲立業

十九 問屋業

第三條 營業收益稅ハ營業ノ純益ニ付之ヲ賦課ス

第四條 法人ノ純益ハ各事業年度ノ總益金ヨリ總損金ヲ控除シタル金額ニ依ル

2 法人カ事業年度中ニ解散シ又ハ合併ニ因リテ消滅シタル場合ニ於テハ其ノ事業年度ノ始ヨリ解散又ハ合併ニ至ル迄ノ期間ヲ以テ一事業年度ト看做ス

第五條 合併後存続スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ハ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ純益ニ付營業收益稅ヲ納ムル義務アルモノトス

第六條 個人ノ純益ハ前年中ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル金額ニ依ル但シ前年一月一日ヨリ引續キ爲シタルニ非サル營業ニ付テハ其ノ年ノ豫算

營業收益稅法

三七七

ニ依リ計算ス  
2 相續シタル營業ニ付テハ相續人カ引續キ之ヲ爲シタルモノト看做シテ其ノ純益ヲ計算ス資本利子說ヲ課セラルヘキ資本利子ハ之ヲ純益ニ算入セス

- 第七條 左ニ掲クル營業ノ純益ニハ營業收益稅ヲ課セス
- 一 政府ノ發行スル印紙切手類ノ賣捌
  - 二 度量衡ノ製作、修覆又ハ販賣
  - 三 自己ノ採掘シ又ハ採取シタル礦物ノ販賣
  - 四 新聞紙法ニ依ル出版
  - 五 本法施行地外ニ在ル營業場ニ於テ爲ス營業
  - 六 法人ノ漁業又ハ演劇興行
  - 七 個人ノ自己ノ收穫シタル農産物、林産物、畜産物若ハ水産物ノ販賣又ハ之ヲ原料トスル製造但シ特ニ營業場ヲ設ケテ爲ス販賣又ハ製造ヲ除ク
  - 第八條 勅令ヲ以テ指定スル重要物産ノ製造業ヲ營ム者ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ開業ノ年及其ノ翌年ヨリ三年間其ノ營業ヨリ生スル純益ニ付營業收益稅ヲ



營業收益税法

免除ス

第九條 個人ノ純益金額四百圓ニ滿タサルトキハ營業收益税ヲ課セス

第十條 營業收益税ハ左ノ稅率ニ依リ之ヲ賦課ス

法人 百分ノ三・四  
個人

純益金額千圓以下ナルトキ 百分ノ二・二  
純益金額千圓ヲ超ユルトキ

〔千圓以下ノ金額 百分ノ二・二  
千圓ヲ超ユル金額 百分ノ二・六〕

2 法人カ各事業年度ニ於テ納付シタル地租額又ハ資本利子税額ハ命令ノ定ムル所ニ依リ當該事業年度ノ營業收益税額ヨリ之ヲ控除ス

3 個人カ其ノ營業用ノ土地ニ付納付シタル地租額ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ營業收益税額ヨリ之ヲ控除ス

4 前二項ノ場合ニ於テ控除スヘキ地租又ハ資本利子税ハ純益計算上之ヲ損金又ハ必要經費ニ算入セス

第十一條 納稅義務アル法人ハ命令ノ定ムル所ニ依リ純益金額ヲ政府ニ申告スヘシ

第十二條 納稅義務アル個人ハ命令ノ定ムル所ニ依リ毎年三月十五日迄ニ純益金額ヲ政府ニ申告スヘシ

第十三條 法人ノ純益金額ハ第十一條ノ申告ニ依リ申告ナキトキ又ハ申告ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ノ調査ニ依リ政府ヲ於テ之ヲ決定シ個人ノ純益金額ハ所得税法ノ所得調査委員會ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス

2 所得調査委員會閉會後個人ノ純益金額ノ決定ニ付脱漏アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ決定ヲ爲スヘカ

3 所得調査委員會閉會後個人ノ營業ニ付納稅義務アルコトヲ申出テ又ハ純益金額ノ増加アルコトヲ申出テタルトキハ前二項ノ規定ニ拘ラス政府ニ於テ其ノ純益金額ヲ決定ス

第十四條 稅務署長ハ毎年個人ノ營業ニ付納稅義務アル場合ニ之ヲ準用ス

リト認ムル者ノ純益金額ヲ調査シ其ノ調査書ヲ所得調査委員會ニ送付スヘシ

2 前項ノ規定ハ前條第二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十五條 所得税法第五十條乃至第五十二條ノ規定ハ純益金額ノ決議及決定ニ付之ヲ準用ス

第十六條 第十三條又ハ前條ノ規定ニ依リ純益金額ヲ決定シタルトキハ政府ハ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

第十七條 納稅義務者前條ノ規定ニ依リ政府ノ通知シタル純益金額ニ對シテ異議アルトキハ通知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ不服ノ事由ヲ具シ政府ニ審査ノ請求ヲ爲スコトヲ得

2 前項ノ請求アリタル場合ト雖政府ハ税金ノ徴收ヲ猶豫セス

第十八條 前條第一項ノ請求アリタルトキハ所得税法ノ所得審査委員會ノ決議ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス

2 所得税法第五十二條第六十一條第二項ノ規定ハ前項

營業收益税法

ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十九條 個人ノ營業ニ付納稅義務アル者純益金額二分ノ一以上減損アルトキハ政府ニ純益金額ノ更訂ノ請求ヲ爲スコトヲ得但シ翌年一月三十一日ヲ過キタルトキハ此ノ限ニ在ラス

2 純益金額決定後營業繼續ニ因リ純益金額ノ減損シタル場合ハ前項ノ規定ヲ適用セス

第二十條 前條第一項ノ請求アリタルトキハ政府ハ純益金額ヲ査覈シ二分ノ一以上ノ減損アルトキハ之ヲ更訂ス

第二十一條 納稅義務者第十八條ノ決定又ハ前條ノ更訂處分ニ對シ不服アルトキハ訴訟又ハ行政訴訟ヲ爲スコトヲ得

第二十二條 法人ノ營業收益税ハ事業年度毎ニ之ヲ徴收ス

2 個人ノ營業收益税ハ年額ヲ二分シ左ノ二期ニ於テ之ヲ徴收ス  
第一期 其ノ年八月一日ヨリ三十一日限



營業收益稅法

第二期 其ノ年十一月一日ヨリ三十日限  
第二十三條 第十九條第一項ノ請求アリタルトキハ政  
府ハ更訂處分ノ確定スルニ至ル迄税金ノ徵收ヲ猶豫  
スルコトヲ得

第二十四條 個人ノ營業收益稅ハ納稅義務者ノ住所  
住所ナキトキハ主タル營業場ノ所在地ヲ以テ納稅地  
トス但シ第三種ノ所得ニ付所得稅ヲ納ムル者ニ在リ  
テハ所得稅ノ納稅地ヲ以テ營業收益稅ノ納稅地トス  
第二十五條 收稅官吏ハ營業ニ關スル帳簿物件ヲ檢査  
シ又ハ營業者ニ質問スルコトヲ得

第二十六條 政府ハ同業組合其ノ他ノ營業者ノ團體ニ  
對シ營業收益稅ニ關スル事項ヲ諮問スルコトヲ得  
第二十七條 所得稅法第七十三條ノ二ノ規定ハ純益金  
額ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第二十八條 第二十五條ノ規定ニ依リ帳簿物件ノ檢査  
ヲ妨ケ又ハ虛偽ノ記載ヲ爲シタル帳簿ヲ提示シタル  
調書ヲ提出スヘシ

法人ノ大正十六年一月一日以後ニ終了スル事業年度ノ  
期間カ大正十五年ニ跨ルモノニ付テハ當該事業年度ノ  
純益金額ヨリ日割計算ノ方法ニ依リテ算出シタル大正  
十五年ニ屬スル期間ノ純益ヲ控除ス

附則 (昭和六年四月法律第四十七號)

1 本法ハ個人ノ營業收益稅ニ付テハ昭和六年分ヨリ、  
法人ノ營業收益稅ニ付テハ昭和七年四月一日以後ニ  
終了スル事業年度分ヨリ之ヲ適用ス但シ昭和六年分  
ノ個人ノ營業收益稅ニ限り改正規定中百分ノ二・二  
トアルハ百分ノ二・五百分ノ二・六トアルハ百分ノ  
二・八トス

2 昭和七年三月三十一日以前ニ終了スル事業年度分ノ  
法人ノ營業收益稅及昭和五年分以前ノ個人ノ營業收  
益稅ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

營業收益稅法施行規則

大正十五年九月九日  
勅令第三百三號

營業收益稅法施行規則

者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九條 詐偽其ノ他不正ノ行爲ニ因リ營業收益稅  
ヲ遁脫シタル者ハ其ノ遁脫シタル税金ノ三倍ニ相當  
スル罰金又ハ科料ニ處ス但シ自首シタル者又ハ稅務  
署長ニ申出テタル者ハ其ノ罪ヲ問ハス

前項ノ場合ニ於テ個人ノ營業ニ付營業收益稅ヲ遁脫  
シタル者ノ純益金額ハ第十三條第二項ノ規定ニ拘ラ  
ス政府ニ於テ之ヲ決定シ直ニ其ノ税金ヲ徵收ス  
第三十條 營業收益稅ノ調査又ハ審査ノ事務ニ從事シ  
又ハ從事シタル者其ノ調査又ハ審査ニ關シ知得シタ  
ル秘密ヲ正當ノ事由ナクシテ漏洩シタルトキハ五百  
圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十一條 本法ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第  
三項但書第三十九條第二項、第四十條、第四十一條  
第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ例ヲ  
用ヒス但前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ此限ニ在ラス

附則  
本法ハ大正十六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔埼玉〕

沿革  
昭和五年勅令第十八號  
六年同第四十八號改正

〔埼玉〕

第一條 法人ノ純益ハ營業收益稅ヲ課スヘキ營業ニ付  
其ノ純益金額ヨリ總損金ヲ控除シテ之ヲ計算ス  
2 法人ノ前事業年度ヨリ繰越シタル純益金額又ハ損金ハ其  
ノ事業年度ノ純益計算上益金又ハ損金ニ之ヲ算入セ  
ス

第二條 營業收益稅法第十條第二項ノ規定ニ依リ營業  
收益稅額ヨリ控除スヘキ地租額又ハ資本利子稅額ハ  
營業收益稅ヲ課スヘキ營業ノ用ニ供スル土地又ハ資  
本ノ利子ニ付納付シタルモノニ限ル但シ貸付ケタル  
土地ニ對スル地租額ノ控除ハ其ノ土地ニ付生シタル  
純益ノ總額ニ百分ノ三・四ヲ乘シタル金額ヲ超ユル  
コトヲ得ス

2 前項ノ場合ニ於テ營業收益稅ヲ課スヘキ營業ト其ノ  
他ノ營業トニ共通シテ使用スル土地又ハ資本ノ利子  
アルトキハ其ノ地稅總額又ハ資本利子稅總額ヲ營業  
收益稅ヲ課スヘキ營業ニ屬スル收入金額ト其他ノ營



營業收益稅法施行規則

業ニ屬スル收入金額トニ按分シテ控除額ヲ計算ス但シ收入金額ノ割合ニ依ルヲ不適當トスルトキハ資産價額又ハ純益ノ割合其ノ他適當ナル方法ニ依リ之ヲ計算スルコトヲ得

第三條 營業收益稅法第十條第二項ノ規定ニ依リ營業收益稅額ヨリ控除スヘキ資本利子稅額中公債、社債又ハ產業債券ニ對スルモノハ其ノ公債、社債又ハ產業債券ヲ所有シタル期間ノ利子ニ對スルモノニ限ル  
前項ノ公債、社債又ハ產業債券ヲ所有シタル期間ノ利子ニ對スル資本利子稅額ハ其ノ納付シタル資本利子稅額ヲ其ノ公債、社債又ハ產業債券ヲ所有シタル期間ノ利子額ト所有セサリシ期間ノ利子額トニ按分シテ之ヲ計算ス

第四條 營業收益稅法第十條第二項ノ規定ニ依リ營業收益稅額ヨリ地租額又ハ資本利子稅額ノ控除ヲ受ケムトスル者ハ營業收益稅法第十一條ノ申告ト同時ニ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スヘシ  
前項ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ土地ノ地目別又ハ資

2 前項ノ地租額ハ前年中ニ納付シタル金額ニ依リ之ヲ計算ス但シ營業收益稅法第六條第一項但書ノ場合ニ於テハ其ノ年ノ豫算ニ依ル  
3 第二條第二項ノ規定ハ營業收益稅ヲ課スヘキ營業ト其ノ他ノ營業トニ共通シテ使用スル土地ニ對スル地租額ノ控除ニ付之ヲ準用ス

第九條 營業收益稅法第十條第三項ノ規定ニ依リ營業收益稅額ヨリ地租額ノ控除ヲ受ケムトスル者ハ營業收益稅法第十二條ノ申告ト同時ニ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スヘシ但シ其ノ年三月十六日以後ニ於テ納稅義務アルニ至リタルトキハ純益金額ノ決定前其ノ純益ノ申告ト同時ニ之ヲ申請スヘシ

2 前項ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ地番、地目、賃賃價格及地租額ニ關スル明細書ヲ提出スヘシ  
第十條 左ニ掲クル物產ノ製造業ヲ營ム者ニハ營業收益稅法第八條ノ規定ニ依リ營業收益稅ヲ免除ス  
一 金、銀、鉛、亞鉛、鐵又ハアルミニウムノ地金  
二 鐵ノ條竿、板、テーパー、形アングル形類、軌條、板

營業收益稅法施行規則

本利子ノ種類別ニ其ノ賃賃價額又ハ利子、納付シタル稅額及控除ヲ受ケヘキ稅額ニ關スル明細書ヲ提出スヘシ

第五條 稅務署長ニ於テ必要アリト認ムルトキハ前條ノ申請ヲ爲シタル者ニ對シ其ノ計算ヲ證明スヘキ書類又ハ帳簿ノ呈示又ハ提出ヲ命スルコトヲ得  
第六條 個人ノ純益ハ營業收益稅ヲ課スヘキ營業ニ付其ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シテ之ヲ計算ス

第七條 營業收益稅法第六條第一項ノ規定ニ依リ總收入金額ヨリ控除スヘキ經費ハ仕入品ノ原價、原料品ノ代價、場所物件ノ修繕費又ハ借入料、場所物件又ハ營業ニ係ル公課、雇人ノ給料其ノ他收入ヲ得ルニ必要ナルモノニ限ル但シ家事上ノ費用及之ニ關聯スルモノハ之ヲ控除セス

第八條 營業收益稅法第十條第三項ノ規定ニ依リ營業收益稅額ヨリ控除スヘキ地租額ハ其營業用ノ土地ニシテ家事ニ關セサルモノニ付納付シタルモノニ限ル

〔埼玉〕

〔埼玉〕

- 三 線及管(鑄製管ヲ除ク)
  - 四 銅ノ合金ノ條、竿、板及管
  - 五 汽罐、原動機(機關車ヲ含ム)及動力ヲ以テ運轉スル鐵製ノ機械
  - 六 燐、曹達灰、苛性曹達、硫酸アンモニウム、石炭酸、クロール酸加里及グリセリン
  - 七 製紙用バルブ
  - 八 板硝子
  - 九 コンデンシドミルク
  - 九 絹、亞麻又ハ毛ノ織物
- 2 前項第九號ノ物產ノ製造業ニ付テハ動力ヲ以テ運轉スル機械ヲ使用シ幅鯨尺一尺八寸以上及長鯨尺三十尺以上ノ織物ノミヲ製造スル者ニ限ル
- 第十一條 前條ノ製造業ヲ繼續シ又ハ其ノ繼續ト認ムヘキ事實アル者ハ其ノ製造業ニ付營業收益稅ノ免除期間ノ殘存スルトキニ限リ其ノ免除期間ヲ繼承ス
- 第十二條 營業收益稅法第八條ノ規定ニ依リ營業收益稅ノ免除ヲ受ケムトスル者ハ同法第十一條又ハ第十

三八三



營業收益稅法施行規則

二條ノ申告ト同時ニ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スヘシ  
但シ其ノ年三月十六日以後ニ於テ個人ノ營業ニ付納  
稅義務アルニ至リタルトキハ純益金額ノ決定前其ノ  
純益ノ申告ト同時ニ之ヲ申請スヘシ

2 前項ノ場合ニ於テ第十條ノ製造業ヨリ生スル純益ト  
其ノ他ノ純益ト有スルトキハ第十條ノ製造業ヨリ  
生スル純益ト其ノ他ノ純益トヲ區別シタル計算書ヲ  
添付スヘシ

第十三條 法人ノ純益金額ハ每事業年度決算確定ノ日  
若ハ合併ノ日ヨリ十四日以内又ハ清算着手ノ日ヨリ二  
十日以内ニ之ヲ所轄稅務署ニ申告スヘシ但シ所得稅  
法ニ依ル所得ノ申告書ニ附記シテ之ヲ爲スコトヲ妨  
ケス

第十四條 個人ノ營業ニ付納稅義務アル者ハ營業ノ種  
類、營業場所所在地純益金額及純益算出ノ基礎ヲ詳記  
シ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第十五條 稅務署長ハ所轄内ニ事務所ヲ有スル同業組  
合其他ノ營業者ノ團體ニ對シ其團體ニ屬スル各營業

者ノ純益金額ノ見込額又ハ順位ヲ諮問スルコトヲ得  
2 前項ノ諮問ヲ受ケタル團體ハ諮問事項ニ對スル調査  
ヲ作成シ稅務署長ノ指定スル期限迄ニ之ヲ所轄稅務  
署ニ提出スヘシ

第十六條 稅務署長營業收益稅法第十三條、第十五條  
又ハ第二十九條第二項ノ規定ニ依リ純益金額ヲ決定  
シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

第十七條 營業收益稅法第十七條第一項ノ審査ノ請求  
ヲ爲サムトスル者ハ事由ヲ具シ謄寫書類ヲ添ヘ純益  
金額ノ決定ヲ爲シタル稅務署長ヲ經由シ稅務監督局  
長ニ申出ツヘシ

第十八條 所得稅法施行規則第五十六條ノ規定ハ純益  
金額ノ決議ニ付之ヲ準用ス

第十九條 稅務監督局長營業收益稅法第十八條ノ規定  
ニ依リ純益金額ヲ決定シタルトキハ之ヲ納稅義務者  
ニ通知スヘシ

第二十條 營業收益稅法第十九條第一項ノ請求アリタ  
ル場合ニ於テ其ノ請求カ手續ニ違背シタルモノナル

〔埼玉〕

トキ又ハ稅務署長ニ於テ純益金額二分ノ一以上ノ減  
損ナシト認メタルトキハ之ヲ却下スヘシ

〔埼玉〕

第二十一條 稅務署長營業收益稅法第二十條ノ規定ニ  
依リ純益金額ヲ更訂シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ  
通知スヘシ

第二十二條 納稅義務者納稅地ノ稅務署所轄外ニ營業  
場ヲ有スルトキハ其ノ營業場所所在地ノ稅務署ニ納稅  
地ヲ申告スヘシ

第二十三條 納稅義務者納稅地ヲ變更スルトキハ其ノ  
旨新納稅地ノ稅務署ニ申告スヘシ

第二十四條 收稅官吏營業收益稅法第二十五條ノ規定  
ニ依リ營業ニ關スル帳簿物件ヲ検査スルトキハ検査  
章ヲ携帯スヘシ

附則  
本令ハ大正十六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス法人ノ大正  
十六年一月一日以後ニ終了スル事業年度ノ期間カ大正  
十五年ニ跨ルモノニ付テハ當該事業年度ノ營業收益稅  
額ヨリ控除スヘキ地租額又ハ資本利子稅額ハ當該事業

家屋賃賃價格調査令

年度ノ總日數ニ對スル大正十六年ニ屬スル日數ノ割合  
ヲ其ノ納付シタル地租額又ハ資本利子稅額ニ乘シ之ヲ  
計算ス

附則 (昭和六年四月勅令第四十八號)

1 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

2 第二條ノ改正規定ハ昭和七年四月一日以後ニ終了ス  
ル事業年度分ノ法人ノ營業收益稅ヨリ之ヲ適用ス

3 昭和五年分以前ノ地租ノ控除ニ關スル明細書ハ仍從  
前ノ依ニ依ル

家屋賃賃價格調査令

昭和四年十二月  
勅令第四百三號

第一章 家屋稅調查委員

第一條 大正十五年法律第二十四號ニ規定スル家屋稅  
調查委員ハ第一次家屋稅調查委員、第二次家屋稅調  
査委員及臨時家屋稅調查委員トス

第二章 第一次家屋稅調查委員

第二條 第一次家屋稅調查委員(以下本章ニ於テ之ヲ



調査委員ト稱ス。ハ各市町村ノ區域ニ之ヲ置キ市町村長及家屋稅調査員（以下本令ニ於テ之ヲ調査員ト稱ス）ヲ以テ之ヲ組織ス

調査員ハ市町村ノ區域ニ於テ其ノ被選舉權アル者ニ就キ選舉人之ヲ選舉ス

第三條 各市町村ノ區域ニ於ケル調査員ノ定數左ノ如シ

- 一 人口五千未満ノ市町村 六人
  - 二 人口五千以上一萬未満ノ市町村 九人
  - 三 人口一萬以上二萬未満ノ市町村 十二人
  - 四 人口二萬以上五萬未満ノ市町村 十五人
  - 五 人口五萬以上十萬未満ノ市町村 十八人
  - 六 人口十萬以上ノ市町村 二十人
- 人口十萬ヲ超ユル市町村ニ於テハ人口十萬、人口五十萬ヲ超ユル市町村ニ於テハ人口二十萬ヲ加フル毎ニ調査員二人ヲ増加ス
- 調査員ノ定數ハ人口ニ増減アルモ總選舉ヲ行フ場合ニ非サレハ之ヲ増減セス

町村ノ區域ニ於テ調査員ノ被選舉權ヲ有ス但シ禁治產者及準禁治產者ハ此ノ限ニ在ラス

第八條 調査員ニ缺員ヲ生シタルトキハ第三十一條ノ例ニ依リ之ヲ補充スヘキ當選者ヲ定ムヘシ

前項ノ規定ニ依リ當選者ヲ定ムルモ仍缺員アル場合ニ於テ其ノ缺員カ當該市町村ノ區域ニ於ケル調査員ノ定數ノ三分ノ一ヲ超ユルトキ又ハ府縣知事ニ於テ必要ト認ムルトキハ補缺選舉ヲ行フヘシ

補缺調査員ハ前任者ノ殘任期間在任ス

第九條 市町村長ハ選舉期日前四十日ヨリ期トシ其ノ日ノ現在ニ依リ選舉人名簿ヲ調製スヘシ

第十條 市町村長ハ選舉期日前二十日ヨリ期トシ其ノ日ヨリ七日間市役所、町村役場又ハ其ノ指定シタル場所ニ於テ選舉人名簿ヲ關係者ノ縱覽ニ供スヘシ

縱覽ノ場所ハ縱覽開始ノ日前三日ヨリ迄ニ之ヲ告示スヘシ

第十一條 選舉人名簿ニ關シ關係者ニ於テ異議アルトキハ縱覽期間内ニ之ヲ市町村長ニ申立ツルコトヲ得

家屋賃賃價格調査令

第四條 府縣知事特別ノ事情アリト認ムルトキハ區劃ヲ定メテ投票分會ヲ設クルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ投票分會ヲ設ケタルトキハ府縣知事ハ直ニ其ノ區劃ヲ告示スヘシ

第五條 調査員ノ任期ハ四年トシ總選舉ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第六條 市町村内ノ家屋ニ付家屋稅ヲ納ムル者ハ當該市町村ノ區域ニ於テ調査員ノ選舉權ヲ有ス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ此ノ限ニ在ラス

一 破産者ニシテ複雜ヲ得サル者

二 租稅滯納處分中ノ者

三 六年ノ徵役若ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者

四 六年未満ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレ其ノ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノ者

第七條 市町村内ニ住所ヲ有シ且其ノ市町村ノ區域ニ於テ選舉權ヲ有スル年齢二十五年以上ノ者ハ當該市

〔埼玉〕

〔埼玉〕

此ノ場合ニ於テハ市町村長ハ其ノ申立ヲ受ケタル日ヨリ五日内ニ之ヲ決定シ名簿ノ修正ヲ要スルトキハ直ニ之ヲ修正スヘシ

市町村長前項ノ決定ヲ爲シタルトキハ直ニ申立人ニ理由ヲ附シタル決定書ヲ交付シ併セテ其ノ要領ヲ告示スヘシ

第一項ノ決定ニ不服アル者ハ其ノ決定書ノ交付ヲ受ケタル者ニ在リテハ其ノ受ケタル日ヨリ、其ノ他ノ者ニ在リテハ告示アリタル日ヨリ十日内ニ府縣知事ニ訴願スルコトヲ得

第十二條 選舉人名簿ハ選舉期日ノ前三日ヨリ以テ確定ス

確定名簿ハ其ノ確定シタル日ヨリ一年以内ニ於テ行フ選舉ニ之ヲ用フ

前條第三項ノ場合ニ於テ裁決アリタルニ依リ名簿ノ修正ヲ要スルトキハ市町村長ハ直ニ之ヲ修正シ併セテ其ノ旨ヲ告示スヘシ

第十三條 第十一條ノ場合ニ於テ決定確定シ又ハ裁決



アリタルニ依リ選舉人名簿無効ト爲リタルトキハ更ニ名簿ヲ調製スヘシ  
 天災事變等ノ爲必要アルトキハ更ニ名簿ヲ調製スヘシ  
 前二項ノ規定ニ依ル名簿ノ調製、縦覽、確定及異議決定ニ關スル期日及期間ハ府縣知事ノ定ムル所ニ依ル  
 前項ノ規定ニ依リ期日及期間ヲ定メタルトキハ府縣知事ハ直ニ之ヲ告示スヘシ  
 名簿調製後ニ於テ選舉期日ヲ變更スルコトアルモ其ノ名簿ヲ用ヒ縦覽、確定及異議ノ決定ニ關スル期日及期間ハ前選舉期日ニ依リ之ヲ算定ス  
 投票分會ヲ設ケタル場合ニ於ケル選舉人ノ所屬及選舉人名簿ノ抄本ノ調製ニ關シ必要ナル事項ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依ル  
**第十四條** 府縣知事ハ選舉ノ期日前七日目迄ニ選舉ヲ行フヘキ區域、投票ヲ行フヘキ日時及選舉スヘキ調査員ノ員數ヲ告示スヘシ

天災事變等ノ爲投票ヲ行フコトヲ得サルトキハ更ニ投票ヲ行フノ必要アルトキハ府縣知事ハ當該市町村ノ區域又ハ投票分會ノ區劃ニ付投票ヲ行フヘキ日時ヲ定メ投票ノ期日前七日目迄ニ之ヲ告示スヘシ  
**第十五條** 市町村長ハ選舉ノ期日前五日目迄ニ選舉會場（投票分會場ヲ含ム以下之ニ同シ）ヲ告示スヘシ  
**第十六條** 市町村長ハ選舉長ト爲リ選舉會ヲ開閉シ其ノ取締ニ任ス  
 市町村長ハ選舉人名簿ニ登錄セラレタル者ニシテ被選舉權ヲ有スル者ノ中ヨリ二人ノ選舉立會人ヲ選任スヘシ  
 投票分會ニ於テハ市町村長ノ指定シタル吏員投票分會長ト爲リ之ヲ開閉シ其ノ取締ニ任ス  
 市町村長ハ投票分會ニ於テ投票スヘキ選舉人ニシテ被選舉權ヲ有スル者ノ中ヨリ二人ノ投票立會人ヲ選任スヘシ  
**第十七條** 選舉ハ無記名投票ヲ以テ之ヲ行フ  
 投票ハ一市町村ノ區域ニ付テハ一人一票ニ限ル

選舉人ハ選舉ノ當日投票時間内ニ自ラ選舉會場ニ到リ選舉人名簿又ハ其ノ抄本ノ對照ヲ經テ投票ヲ爲スヘシ  
 投票時間内ニ選舉會場ニ入りタル選舉人ハ其ノ時間ヲ過クルモ投票ヲ爲スコトヲ得  
 選舉人ハ選舉會場ニ於テ投票用紙ニ自ラ被選舉人一人ノ氏名ヲ記載シテ投函スヘシ  
 自ラ被選舉人ノ氏名ヲ書スルコト能ハサル者ハ投票ヲ爲スコトヲ得ス  
 投票用紙ハ府縣知事ノ定ムル所ニ依リ一定ノ式ヲ用フヘシ  
 投票分會ニ於テ爲シタル投票ハ投票分會長少クトモ一人ノ投票立會人ト共ニ投票函ノ儘之ヲ選舉長ニ送致スヘシ  
**第十八條** 確定名簿ニ登錄セラレサル者ハ投票ヲ爲スコトヲ得ス但シ選舉人名簿ニ登錄セラレヘキ確定決定書又ハ裁決書ヲ所持シ選舉ノ當日選舉會場ニ到ル者ハ此ノ限ニ在ラス確定名簿ニ登錄セラレタル者選

舉人名簿ニ登錄セラレタルコトヲ得サル者ナルトキハ投票ヲ爲スコトヲ得ス選舉ノ當日選舉權ヲ有セサル者ナルトキ亦同シ  
**第十九條** 投票ノ拒否ハ選舉立會人又ハ投票立會人ノヲ決定ス可ク同數ナルトキハ選舉長又ハ投票分會長之ヲ決スヘシ  
 投票分會ニ於テ投票拒否ノ決定ヲ受ケタル選舉人不服アルトキハ投票分會長ハ假ニ投票ヲ爲サシムヘシ  
 前項ノ投票ハ選舉人ヲシテ之ヲ封筒ニ入レ封緘シ表面ニ自ラ其ノ氏名ヲ記載シ投函セシムヘシ  
**第二十條** 第三十五條ノ選舉及補缺選舉ヲ同時ニ行フ場合ニ於テハ一ノ選舉ヲ以テ合併シテ之ヲ行フ  
**第二十一條** 市町村長ハ豫メ開票ノ日時ヲ告示スヘシ  
**第二十二條** 選舉長ハ投票ノ日又ハ其ノ翌日（投票分會ヲ設ケタルトキハ總テノ投票函ノ送致ヲ受ケタル日又ハ其ノ翌日）選舉立會人立會ノ上投票函ヲ開キ投票ノ總數ト投票人ノ總數トヲ計算スヘシ



前項ノ計算終リタルトキハ選舉長ハ先ツ第十九條第二項ノ投票ヲ調査スヘシ其ノ投票ノ受理如何ハ選舉立會人之ヲ決定ス可否同數ナルトキハ選舉長之ヲ決スヘシ

選舉長ハ選舉立會人ト共ニ投票ヲ點檢スヘシ  
天災事變等ノ爲開票ヲ行フコト能ハサルトキハ市町村長ハ更ニ開票ノ日時ヲ定ムヘシ此ノ場合ニ於テ選舉會場ノ變更ヲ要スルトキハ豫メ更ニ其ノ場所ヲ告示スヘシ

第二十三條 選舉人ハ其ノ選舉會ノ參觀ヲ求ムルコトヲ得但シ開票開始前ハ此ノ限ニ在ラス

第二十四條 府縣知事特別ノ事情アリト認ムルトキハ區劃ヲ定メテ開票分會ヲ設クルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ開票分會ヲ設クル場合ニ於テ必要ナル事項ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依ル

第二十五條 左ノ投票ハ之ヲ無効トス

- 一 成規ノ用紙ヲ用ヒサルモノ
- 二 現ニ調査員ノ職ニ在ル者ノ氏名ヲ記載シタルモノ

三 一投票中二人以上ノ被選舉人ノ氏名ヲ記載シタルモノ

四 被選舉人ノ何人タルカヲ認メ難キモノ

五 被選舉權ナキ者ノ氏名ヲ記載シタルモノ

六 被選舉人ノ氏名ノ外他事ヲ記入シタルモノ但シ爵位、職業、身分、住所又ハ敬稱ノ類ヲ記入シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

七 被選舉人ノ氏名ヲ自書セサルモノ

第二十六條 投票ノ效力ハ選舉立會人之ヲ決定ス可否同數ナルトキハ選舉長之ヲ決スヘシ

第二十七條 調査員ノ選舉ハ有效投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選者トス得票ノ數同シキトキハ年長者ヲ取り年齡同シキトキハ選舉長抽籤シテ之ヲ定ムヘシ

第二十八條 當選者選舉ノ期日後ニ於テ被選舉權ヲ有セサルニ至リタルトキハ當選ヲ失フ

第二十九條 選舉長ハ選舉錄ヲ作り選舉會ニ關スル類

〔埼玉〕

〔埼玉〕

末ヲ記載シ之ヲ朗讀シ選舉立會人ト共ニ之ニ署名スヘシ

投票分會長ハ投票錄ヲ作り投票ニ關スル類末ヲ記載シ之ヲ朗讀シ投票立會人ト共ニ之ニ署名スヘシ  
投票分會長ハ投票函ト同時ニ投票錄ヲ選舉長ニ送致スヘシ

選舉錄及投票錄ハ投票、選舉人名簿其ノ他ノ關係書類ト共ニ調査員ノ任期間市町村長ニ於テ之ヲ保存スヘシ

第三十條 當選者定マリタルトキハ市町村長ハ直ニ當選者ニ當選ノ旨ヲ告知シ同時ニ當選者ノ住所氏名ヲ告示スヘシ當選者ナキトキ又ハ當選者其ノ選舉ニ於テ選舉スヘキ調査員ノ員數ニ達セサルトキハ直ニ其ノ旨ヲ告示シ併セテ之ヲ府縣知事ニ報告スヘシ  
當選者當選ノ告知ヲ受ケタルトキハ十日内ニ其ノ當選ヲ承諾スルヤ否ヲ市町村長ニ申立ツヘシ  
當選者前項ノ申立ヲ其ノ期間内ニ爲ササルトキハ當選ヲ辭シタルモノト看做ス

家屋賃賃價格調査令

三九一

市町村長第二項ノ規定ニ依リ申立ヲ受ケタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ府縣知事ニ報告スヘシ

當選者ナキニ至リタルトキ又ハ當選者其ノ選舉ニ於テ選舉スヘキ調査員ノ員數ニ達セサルニ至リタルトキハ市町村長ハ直ニ其ノ旨ヲ告示シ併セテ之ヲ府縣知事ニ報告スヘシ

第三十一條 當選者左ニ掲クル事由ノ一ニ該當スル場合ニ於テ他ノ得票者ニシテ當選者ト爲ラサリシ者アルトキハ直ニ選舉會ヲ開キ其ノ者ノ中ニ就キ當選者ヲ定ムヘシ

一 當選ヲ辭シタルトキ又ハ死亡者ナルトキ

二 第二十八條ノ規定ニ依リ當選ヲ失ヒタルトキ

三 第三十四條ノ規定ニ依リ異議申立又ハ訴訟ノ結果當選無効トナリタルトキ

前項ノ場合ニ於テ當選者ト爲ラサリシ者選舉ノ期日後ニ於テ被選舉權ヲ有セサルニ至リタルトキハ之ヲ當選者ト定ムルコトヲ得ス

第一項ノ場合ニ於テハ市町村長ハ豫メ選舉會ノ場所



及日時ヲ告示スヘシ

第三十二條 當選者當選ヲ承諾シタルトキハ府縣知事ハ直ニ當選證書ヲ付與シ併セテ其ノ住所氏名ヲ告示スヘシ

第三十三條 選舉ノ規定ニ違反スルコトアルトキハ選舉ノ結果ニ異動ヲ生スルノ虞アル場合ニ限り其ノ選舉ノ全部又ハ一部ヲ無効トス但シ當選ニ異動ヲ生スルノ虞ナキ者ヲ區分シ得ルトキハ其ノ者ニ限り當選ヲ失フコトナシ

第三十四條 選舉人選舉又ハ當選者效力ニ關シ異議アルトキハ選舉ニ關シテハ選舉ノ日ヨリ、當選ニ關シテハ第三十條第一項又ハ第五項ノ告示ノ日ヨリ七日内ニ之ヲ市町村長ニ申立ツルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ市町村長ハ其ノ申立ヲ受ケタル日ヨリ十四日内ニ之ヲ決定スヘシ

前項ノ決定ニ關シテハ第十一條第二項及第三項ノ規定ヲ準用ス

第八條第二項又ハ第三十五條ノ選舉ハ之ニ關係アル

選舉又ハ當選ニ關スル異議申立期間、異議ノ決定確定セサル間又ハ訴訟ノ裁決アル迄ハ之ヲ行フコトヲ得ス

選舉又ハ當選ニ關スル異議ノ決定確定シ又ハ訴訟ノ裁決アル迄ハ調査員ハ會議ニ列席シ議事ニ參與スルノ權ヲ失ハス

第三十五條 選舉無効ト確定シタルトキ、當選者ナキトキ又ハ當選者ナキニ至リタルトキハ更ニ選舉ヲ行フヘシ當選者其ノ選舉ニ於テ選舉スヘキ調査員ノ員數ニ達セサルトキ又ハ員數ニ達セサルニ至リタルトキ其ノ不足ノ員數ニ付亦同シ

第三十六條 調査員被選舉權ヲ有セサル者ナルトキハ其ノ職ヲ失フ其ノ被選舉權ノ有無ハ市町村長之ヲ決定ス

市町村長前項ノ決定ヲ爲シタルトキハ直ニ本人ニ理由ヲ附シタル決定書ヲ交付スヘシ

第一項ノ決定ヲ受ケタル者不服アルトキハ其ノ決定書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ十日内ニ府縣知事ニ訴願

〔埼玉〕

スルコトヲ得

第三十四條第四項ノ規定ハ第一項及前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十七條 調査委員ハ市町村内ノ家屋ノ賃賃價格ヲ調査ス

調査委員ハ其ノ調査員中ヨリ第二次家屋稅調査委員ヲ組織スヘキ者ヲ選舉スヘシ

前項ノ規定ニ依リ選舉スヘキ調査員ノ定數ハ人口十萬以上ノ市町村ノ區域ニ於ケル調査委員ニ在リテハ三人、人口二萬以上ノ市町村ノ區域ニ於ケル調査委員ニ在リテハ二人、其ノ他ノ調査委員ニ在リテハ一人トス

前項ノ定數ハ人口ニ増減アルモ第一次家屋稅調査委員ヲ組織スヘキ調査員ノ定數ノ變更スル場合ニ非サレハ之ヲ増減セス

第一項ノ規定ニ依リ第二次家屋稅調査委員ヲ組織スヘキ者ヲ選舉シタルトキハ議長ハ直ニ其ノ氏名ヲ府縣知事ニ報告スヘシ

家屋賃賃價格調査令

〔埼玉〕

第三十八條 調査委員ハ市町村長ヲ以テ議長トス

第三十九條 調査委員ノ會議ハ府縣知事之ヲ召集ス召集及會議ノ事件ハ開會ノ日前三日迄ニ府縣知事市町村長ヲシテ之ヲ告知セシムヘシ

調査委員ノ會議ハ市町村長之ヲ開閉ス

第四十條 調査委員ハ會議ノ開會日數ハ府縣知事之ヲ定ムルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス但シ同一ノ事件ニ付召集再回ニ至ルモ仍半數ニ滿タサルトキ又ハ召集ニ應ズルモ出席調査員定數ヲ缺キ議長ニ於テ出席ヲ催告シ仍半數ニ滿タサルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第四十一條 調査委員ノ議事ハ調査員ノ過半數ヲ以テ決ス可同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル議長ハ其ノ職務ヲ行フ場合ニ於テモ之カ爲調査員トシテ議決ニ加ハルノ權ヲ失ハス

第四十二條 第三十七條第二項ノ規定ニ依リ調査委員ニ於テ行フ選舉ニ付テハ第十七條、第二十五條及第二十七條ノ規定ヲ準用ス其ノ投票ノ效力ニ關シ異議



家屋賃賃價格調査令

三九四

アルトキハ調査委員之ヲ決定ス  
前項ノ選舉ニ付テハ調査委員ハ調査員ニ於テ異議ナ  
キ場合ニ限り指名推選ノ法ヲ用ヒ全員ノ同意ヲ得タ  
ル被指名者ヲ以テ當選者ト定ムルコトヲ得

第四十三條 議長ハ會議ヲ總理シ會議ノ順序ヲ定メ其  
ノ日ノ會議ヲ閉閉シ議場ノ秩序ヲ保持ス

第四十四條 調査委員ニ書記ヲ置キ議長之ヲ任免ス  
書記ハ議長ノ命ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第四十五條 議長ハ書記ヲシテ會議録ヲ調製シ會議ノ  
顛末及出席者ノ氏名ヲ記載セシムヘシ

會議録ハ議長及調査員二人以上之ニ署名スルコトヲ  
要ス其ノ調査員ハ調査委員ニ於テ之ヲ定ムヘシ  
議長ハ會議録ノ寫ヲ添ヘ會議ノ結果ヲ府縣知事ニ報  
告スヘシ

第四十六條 市町村長ハ市町村内ノ家屋ノ賃賃價格ニ  
關スル下調査ヲ調製シ之ヲ調査委員ニ提出スヘシ  
前項ノ下調査ノ提出アリタルトキハ調査委員ハ家屋  
ノ賃賃價格ヲ調査シ其ノ調査書ヲ作製シ直ニ第二次

家屋稅調査委員ニ之ヲ送付スヘシ但シ大正十五年勅  
令第三百三十九號第三條第一項及第二項ノ家屋ノ賃  
賃價格ニ關スル調査書ハ調査委員ノ會議ノ閉會後十  
日內ニ府縣知事ニ對シ之ヲ送付スヘシ

第三章 第二次家屋稅調査委員

第四十七條 第二次家屋稅調査委員（以下本章ニ於テ  
之ヲ調査委員ト稱ス）ハ數市町村ノ區域ヲ合セタル  
區域ニ之ヲ置キ府縣知事ノ指定シタル官吏又ハ吏員  
一人及第一次家屋稅調査委員ニ於テ選舉シタル調査  
員ヲ以テ之ヲ組織ス

前項ノ區域ハ府縣知事之ヲ定ム

第四十八條 調査委員ハ其ノ區域内ノ家屋（大正十五  
年勅令第三百三十九號第三條第一項及第二項ノ家屋  
ヲ除ク）ノ賃賃價格ヲ調査ス

第四十九條 調査委員ハ第四十七條第一項ノ規定ニ依  
リ府縣知事ノ指定シタル官吏又ハ吏員ヲ以テ議長ト  
ス

第五十條 調査委員ノ會議ハ府縣知事之ヲ招集ス

〔埼玉〕

招集及會議ノ事件ハ開會ノ日前十日迄ニ府縣知事  
之ヲ告示スヘシ

調査委員ノ會議ハ府縣知事之ヲ閉閉ス

調査委員ノ會議ノ開會日數ハ府縣知事之ヲ定ム

第五十一條 第四十條、第四十一條及第四十三條乃至  
第四十五條ノ規定ハ調査委員ニ之ヲ準用ス

第五十二條 第四十六條第二項ノ規定ニ依リ調査書ノ  
送付ナキトキハ調査委員ハ市町村長ニ同條第一項ノ  
下調査（大正十五年勅令第三百三十九號第三條第一  
項及第二項ノ家屋ニ關スルモノヲ除ク）ノ送付ヲ求  
ムヘシ

第四章 家屋ノ賃賃價格ノ決定

第五十三條 府縣知事ハ第二次家屋稅調査委員ノ調査  
ノ結果ニ依リ家屋ノ賃賃價格ヲ決定スヘシ但シ第二  
次家屋稅調査委員ノ調査完了セサルトキ又ハ其ノ調  
査ヲ不當ナリト認ムルトキハ府縣知事ハ其ノ指定シ  
タル官吏又ハ吏員三人乃至五人ヲ以テ組織シタル臨  
時家屋稅調査委員ノ調査ノ結果ニ依リ之ヲ決定スヘ  
シ

家屋賃賃價格調査令

〔埼玉〕

シ

臨時家屋稅調査委員ノ調査ノ方法ニ關シテハ府縣知  
事ノ定ムル所ニ依ル

第五十四條 大正十五年勅令第三百三十九號第三條第  
一項及第二項ノ家屋ノ賃賃價格ニ付テハ前條ノ規定  
ニ拘ラス第一次家屋稅調査委員ノ調査ノ結果ニ依リ  
府縣知事之ヲ決定スヘシ但シ第一次家屋稅調査委員  
ノ調査完了セサルトキ又ハ其ノ調査ヲ不當ナリト認  
ムルトキハ府縣知事ハ其ノ指定シタル官吏又ハ吏員  
三人乃至五人ヲ以テ組織シタル臨時家屋稅調査委員  
ノ調査ノ結果ニ依リ之ヲ決定スヘシ

第五章 補則

第五十五條 市町村ノ廢置分合又ハ境界變更アリタル  
場合ニ於テ府縣知事必要ト認ムルトキハ次ノ總選舉  
ニ至ル迄ノ間第三條第三項ノ規定ニ拘ラス市町村ノ  
區域ニ於ケル調査員ノ定數ヲ増減スルコトヲ得  
前項ノ場合ニ於テ選舉人名簿並ニ調査員及第二次家  
屋稅調査委員ヲ組織スヘキ調査員ノ選舉、解任等ニ

三九五



關シ必要ナル事項ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依ル

第五十六條 第三條第一項及第二項並ニ第三十七條第三項ノ人口ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依ル

第五十七條 法人タル選舉人ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ代人ヲ以テ投票ヲ行フ此ノ場合ニ於テハ第十七條第三項乃至第六項、第十九條第二項及第三項並ニ第二十三條ノ規定ハ其ノ代人ニ之ヲ適用ス

禁治産者、準禁治産者及未成年者タル選舉人ニ關シテハ前項ノ規定ヲ準用ス

第五十八條 市制第六條及第八十二條第三項ノ市ニ於テハ本令中市ニ關スル規定ハ區ニ、市長ニ關スル規定ハ區長ニ、市役所ニ關スル規定ハ區役所ニ之ヲ適用ス

第五十九條 府縣知事特別ノ事情アリト認ムルトキハ第一條ノ規定ニ拘ラス市ノ區域ヲ數區域ニ分チ其ノ區域毎ニ第一次家屋稅調査委員ヲ置クコトヲ得此ノ場合ニ關シテハ左ノ規定ニ依ル

一 第二條、第三條第一項及第二項、第六條、第七

條、第八條第二項、第十四條第二項、第十七條第二項、第三十七條第一項及第三項、第四十六條第一項、第四十七條第一項並ニ第五十五條ノ規定ノ適用ニ關シテハ市町村又ハ市町村ノ區域トアルハ市ノ區域ヲ分チタル區域トス

二 選舉人名簿ハ市ノ區域ヲ分チタル區域毎ニ之ヲ調製スヘン

三 選舉長ハ府縣知事ノ指定シタル市吏員トシ第二十一條、第二十二條第四項、第三十條第一項第二項第四項及第五項並ニ第三十一條第三項ノ規定ニ依ル市長ノ職務ハ選舉長之ヲ行フ

四 第二條及第三十八條ノ規定ノ適用ニ關シテハ市町村長トアルハ府縣知事ノ指定シタル市吏員トス

〔埼玉〕

一 第三十條第一項第四項及第五項、第三十七條第五項、第四十五條第三項、第四十六條第二項但書並ニ第五十一條ノ規定ニ依ル報告又ハ送付ハ市長ニ對シ之ヲ爲スヘシ

二 第四條、第八條第二項、第十三條第三項及第四項、第十四條、第十七條第七項、第二十四條第一項、第三十二條、第三十九條第一項第二項及第四項、第四十七條、第五十條、第五十三條、第五十四條、第五十五條第一項並ニ前條ノ規定ニ依ル府縣知事ノ職務ハ市長之ヲ行フ

第六十一條 府縣費ノ全部ノ分賦ヲ受ケタル市カ前條ノ市以外ノ市ナル場合ニ於テハ其ノ市ニ關シテハ左ノ規定ニ依ル

一 第三十條第一項第四項及第五項ノ規定ニ依ル報告ハ之ヲ爲スコトヲ要セス

二 第四十五條第三項及第四十六條第二項ノ規定ニ依ル報告又ハ送付ハ市長ニ對シ之ヲ爲スヘシ

三 第四條、第八條第二項、第十三條第三項及第四

家屋賃賃價格調査令

〔埼玉〕

項、第十四條、第十七條第七項、第二十四條第一項、第三十二條、第三十九條第一項第二項及第四項並ニ第五十五條第一項ノ規定ニ依ル府縣知事ノ職務ハ市長之ヲ行フ

四 第三十七條第二項乃至第五項並ニ第四十七條乃至第五十四條ノ規定ハ之ヲ適用セス前項ノ場合ニ於テハ市長ハ第一次家屋稅調査委員ノ調査ノ結果ニ依リ家屋ノ賃賃價格ヲ決定スヘシ但シ第一次家屋稅調査委員ノ調査完了セサルトキ又ハ其ノ調査ヲ不當ナリト認ムルトキハ市長ハ其ノ指定シタル吏員三人ヲ以テ組織シタル臨時家屋稅調査委員ノ調査ノ結果ニ依リ之ヲ決定スヘシ

第六十二條 府縣費ノ全部ノ分賦ヲ受ケタル市カ府縣費ノ全部ノ分賦ヲ受ケサルニ至リタル場合ニ於テハ其ノ市ノ家屋稅ノ調査員ハ之ヲ府縣ノ家屋稅ノ調査員トス

前項ノ調査員ハ府縣ノ總選舉ニ依リ選舉セラレタル調査員ノ任期滿了ノ日迄在任ス



家屋賃賃價格調査令施行規則

第一項ノ場合ニ於テ第六十條ノ規定ニ依リ市長ノ分チタル區域ハ之ヲ第五十九條ノ規定ニ依リ府縣知事ノ分チタル區域ト看做ス

第六十三條 北海道ニ於テハ本令中府縣又ハ府縣知事ニ關スル規定ハ北海道又ハ北海道廳長官ニ、町村町長又ハ町村役場ニ關スル規定ハ町村町長又ハ町村役場ニ準スヘキモノニ之ヲ適用ス

第六十四條 町村組合ニシテ町村ノ事務ノ全部又ハ役場事務ヲ共同處理スルモノハ本令ノ適用ニ付テハ之ヲ一町村、其ノ組合管理者ハ之ヲ町村長、其ノ組合役場ハ之ヲ町村役場ト看做ス

第六十五條 交通至難ノ島嶼其ノ他ノ地ニ於テ本令ヲ適用シ難キ事項ニ付テハ府縣知事ハ主務大臣ノ許可ヲ受ケ特別ノ規定ヲ設ケルコトヲ得

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●家屋賃賃價格調査令施行規則

昭和四年十二月 內務省令 大藏省令

第一條 家屋賃賃價格調査令第三條第一項及第二項ノ人口ハ市制町村制施行規則第一條ノ規定ニ依ル人口トス但シ市制第八十二條第三項ノ市ノ區及家屋賃賃價格調査令第五十九條又ハ第六十條ノ規定ニ依リ市ノ區域ヲ分チタル區域ノ人口ニ付テハ府縣知事ノ告示シタル人口トス

第二條 家屋賃賃價格調査令第四條第一項ノ規定ニ依リ投票分會ヲ設ケタル場合ニ於テハ左ノ規定ニ依ル一 選舉人名簿調製ノ期日ニ於テ投票分會ノ區劃内ニ住所ヲ有シタル選舉人ハ投票分會ニ於テ、其ノ他ノ選舉人ハ選舉會ニ於テ投票ヲ行フヘシ 二 市町村長ハ必要アルトキハ選舉人名簿ニ依リ投票分會ノ區劃毎ニ名簿ノ抄本ヲ調製スヘシ

〔埼玉〕

第三條

市町村ノ廢置分合アリタル場合ニ於テハ從前ノ市町村ノ市町村長(又ハ市町村長ノ職務ヲ行フ者)タリシ者ハ直ニ其ノ地域ノ新ニ屬シタル市町村ノ市町村長ニ選舉人名簿ヲ送付スヘシ但シ名簿ヲ分割スルニ非サレハ送付スルコト能ハサルトキ又ハ關係市町村ニ於ケル名簿カ同一期日ニ依リ調製シタルモノニ非サルトキハ此ノ限ニ在ラス

市町村長選舉人名簿ノ送付ヲ受ケタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ告示シ併セテ之ヲ府縣知事ニ報告スヘシ

第四條 前條ノ規定ニ依リ送付ヲ受ケタル選舉人名簿ハ市町村ノ廢置分合ニ依リ地域ノ新ニ屬シタル市町村ニ於ケル選舉人名簿ト看做ス

第五條 第三條ノ規定ニ依リ送付ヲ受ケタル選舉人名簿確定前ナルトキハ名簿ノ縱覽、確定及異議ノ決定ニ關スル期日及期間ハ府縣知事(府縣費ノ全部ノ分賦ヲ受ケタル市ニ在リテハ市長)ノ定ムル所ニ依ル前項ノ規定ニ依リ期日及期間ヲ定メタルトキハ府縣知事(府縣費ノ全部ノ分賦ヲ受ケタル市ニ在リテハ

家屋賃賃價格調査令施行規則

〔埼玉〕

市長)ハ直ニ之ヲ告示スヘシ

第六條 家屋賃賃價格調査令第五十七條ノ規定ニ依ル代人ハ左ニ掲ケル者トス

一 會社ニ在リテハ業務ヲ執行スル社員、役員、其ノ他ノ法人ニ在リテハ之ニ準スル者

二 禁治産者ニ在リテハ後見人、準禁治産者ニ在リテハ保佐人、未成年者ニ在リテハ法定代理人

代人ハ其ノ代人タルコトヲ證スヘキ書面ヲ選舉長、開票分會長又ハ投票分會長ニ差出スヘシ

第七條 選舉長(又ハ投票分會長)ハ選舉立會人(又ハ投票立會人)ノ面前ニ於テ選舉人ヲ選舉人名簿(又ハ選舉人名簿ノ抄本)ニ對照シタル後投票用紙(假ニ投票ヲ爲サシムヘキ選舉人ニ對シテハ併セテ封筒ヲ交付スヘシ

第八條 選舉人誤リテ投票ノ用紙又ハ封筒ヲ汚損シタルトキハ其ノ引換ヲ請求スルコトヲ得

第九條 選舉人投票前選舉會場(又ハ投票分會場)外ニ退出シ又ハ退出ヲ命セラレタルトキハ選舉長(又ハ



家屋賃賃價格調査令施行規則

四〇〇

投票分會長)ハ投票用紙(交付シタル封筒アルトキハ併セテ封筒)ヲ返付セシムヘシ

第十條 家屋賃賃價格調査令第二十四條第一項ノ規定ニ依ル開票分會ヲ設クル場合ニ於テハ左ノ規定ニ依ル

- 一 府縣知事ハ開票分會ヲ設ケタルトキハ直ニ其ノ區劃ヲ告示スヘシ
- 二 開票分會ニ於テハ市町村長ノ指定シタル吏員開票分會長ト爲リ之ヲ開閉シ其ノ取締ニ任ス
- 三 市町村長ハ豫メ開票分會場ヲ告示スヘシ
- 四 開票分會ノ區劃内ノ投票分會ニ於テ爲シタル投票ハ投票分會長少クトモ一人ノ投票立會人ト共ニ投票函ノ儘投票簿及選舉人名簿ノ抄本(又ハ舉選人名簿)ト併セテ之ヲ開票分會長ニ送致スヘシ
- 五 投票ノ點檢ヲ終リタルトキハ開票分會長ハ直ニ其ノ結果ヲ選舉長ニ報告スヘシ
- 六 開票分會長ハ開票簿ヲ作り開票ニ關スル顛末ヲ記載シ之ヲ朗讀シ開票立會人ト共ニ之ニ署名シ直

〔埼玉〕

- ニ投票簿及投票ト併セテ之ヲ選舉長ニ送致スヘシ
- 七 選舉長ノ總テハ開票分會長ヨリ第五號ノ報告ヲ受ケタル日若ハ其ノ翌日(又ハ總テノ投票函ノ送致ヲ受ケタル日若ハ其ノ翌日)選舉會ニ於テ選舉立會人立會ノ上其ノ報告ヲ調査シ家屋賃賃價格調査令第三十二條第三項ノ規定ニ依リ爲シタル點檢ノ結果ト併セテ各被舉選人ノ得票總數ヲ計算スヘシ
- 八 選舉ノ一部無効ト爲リ更ニ選舉ヲ行ヒタル場合ニ於テハ選舉長ハ前號ノ規定ニ準シ其ノ部分ニ付前條ノ手續ヲ爲シ他ノ部分ニ於ケル各被舉選人ノ得票數ト併セテ其ノ得票總數ヲ計算スヘシ
- 九 家屋賃賃價格調査令第十六條第四項ノ規定ハ開票立會人ニ、同令第二十二條、第二十三條及第二十六條ノ規定ハ開票分會ニ於ケル開票ニ之ヲ準用ス
- 第十一條 市町村ノ廢置分會又ハ境界變更アリタル場合ニ於テ廢置分會又ハ境界變更ニ係ル地域ノ從前屬シタル市町村ノ區域ニ於ケル家屋賃賃調查員其ノ地域ノ新ニ屬シタル市町村ノ區域ニ於テ選舉權ヲ有スル

者ナルトキハ之ヲ當該市町村ノ區域ニ於ケル家屋賃賃調查員トス

〔埼玉〕

市町村ノ廢置分會又ハ境界變更アリタル場合ニ於テ廢置分會又ハ境界變更ニ係ル地域ノ新ニ屬シタル市カ府縣費ノ全部ノ分賦ヲ受ケタル市ナル場合ニ於テ前項ノ規定ニ依リ其ノ市ノ家屋賃賃調查員ト爲リタル者ハ當該市ノ總選舉ニ依リ選舉セラレタル調査員ノ任期滿了ノ日迄在任ス

ノ定數ヲ超ユルニ至リタルトキハ前項ノ例ニ依ル  
第十三條 市町村ノ廢置分會又ハ境界變更アリタル場合ニ於テ家屋賃賃調查員ノ定數ニ異動ヲ生シタル爲調査員其ノ定數ニ滿タサルニ至リタルトキ府縣知事(府縣費ノ全部ノ分賦ヲ受ケタル市ニ在リテハ市長)必要アリト認ムルトキハ其ノ不足ノ員數ニ付選舉ヲ行フヘシ

第一項ノ家屋賃賃調查員第二次家屋賃賃調查委員ヲ組織スル者ナルトキハ之ヲ當該市町村ノ區域ニ於ケル第一次家屋賃賃調查委員ニ於テ選舉セラレタル者ト看做ス

前項ノ選舉ハ家屋賃賃價格調査令第三十五條ノ選舉又ハ補缺選舉ト同時ニ之ヲ行フ場合ニ於テハ一ノ選舉ヲ以テ合併シテ之ヲ行フ  
第一項ノ選舉ニ依リ選舉セラレタル家屋賃賃調查員ハ總選舉ニ依リ選舉セラレタル調査員ノ任期滿了ノ日迄在任ス

第十二條 市町村ノ廢置分會又ハ境界變更アリタル場合ニ於テ家屋賃賃調查員ノ定數ニ異動ヲ生シタル爲解任ヲ要スル者アルトキハ市町村長抽籤シテ之ヲ定ム但シ缺員アルトキハ其ノ缺員ヲ以テ之ニ充ツヘシ  
前條第一項及第三項ノ場合ニ於テ家屋賃賃調查員又ハ第二次家屋賃賃調查委員ヲ組織スル家屋賃賃調查員家屋賃賃價格調査令第三條第一項又ハ第三十七條第三項

家屋賃賃價格調査令施行規則

四〇一

第十四條 家屋賃賃價格調査令第五十八條、第六十三條及第六十四條ノ規定ハ本令ノ適用ニ付之ヲ準用ス  
第十五條 第三條第二項ノ規定ニ依ル報告ハ府縣費ノ全部ノ分賦ヲ受ケタル市カ市制第六條又ハ第八十二條第三項ノ市ナル場合ニ於テハ市長ニ對シ之ヲ爲シ



資本利子税法

其ノ他ノ市ナル場合ニ於テハ之ヲ爲スコトヲ要セス  
第十六條 家屋賃貸價格調査令第五十九條又ハ第六十條ノ規定ニ依リ其ノ區域ヲ數區域ニ分チタル市ニ於テハ本令中市町村ニ關スル規定ハ市ノ區域ヲ分チタル區域ニ之ヲ適用ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●資本利子税法

大正十五年三月二十七日  
法律 第十一號

第一條 本注施行地ニ於テ資本利子ノ支拂ヲ受クル者ニハ本法ニ依リ資本利子税ヲ課ス  
第二條 資本利子税ハ本法施行地ニ於テ支拂ヲ受クル左ノ資本利子ニ付之ヲ賦課ス  
甲種 公債、社債、産業債券若ハ銀行預金ノ利子又ハ貸付信託ノ利子  
乙種 第三種ノ所得ニ付納稅義務ヲ有スル者ノ第三

種ノ所得中營業ニ非サル貸金又ハ預金ノ利子  
②本法ニ於テ貸付信託ト稱スルハ所得稅法第三條ノ三ニ規定スル貸付信託ヲ謂フ

第三條 甲種ノ資本利子ハ其ノ支拂ヲ受クヘキ金額ニ依ル

第四條 乙種ノ資本利子ハ前年中ノ收入金額ニ依ル

②被相続人ノ收入金額ハ之ヲ相續人ノ收入金額ト看做ス  
第五條 甲種ノ資本利子ニシテ左ニ掲クルモノハ資本利子税ヲ課セス

一 所得稅其他ノ法律ニ依リ第二種所得稅ヲ課セラレサル者ノ支拂ヲ受クル利子  
二 貯蓄債券又ハ復興貯蓄債券ノ利子

第六條 資本利子税ノ稅率ハ資本利子金額百分ノ二トス  
②信託會社カ其ノ引受ケタル貸付信託ノ信託財產ニ付納付シタル資本利子税額ハ命令ノ定ムル所ニ依リ當該貸付信託ノ利益ニ對スル資本利子税額ヨリ之ヲ控除ス

③前項ノ場合ニ於テ控除スヘキ資本利子税ハ其ノ貸付  
〔埼玉〕

信託ノ利益ニ之ヲ加算ス

第七條 乙種ノ資本利子ニ付納稅義務アル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ毎年三月十五日迄ニ其ノ資本利子金額ヲ政府ニ申告スヘシ

第八條 乙種ノ資本利子金額ハ所得稅法ノ所得調査委員會ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス

②所得調査委員會閉會後乙種ノ資本利子ノ決定ニ付脱漏アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ決定ヲ爲スヘカリシ年ノ翌年ニ於ケル所得調査委員會ノ調査ニ依リ政府ニ於テ其ノ資本利子金額ヲ決定スルコトヲ得

③所得調査委員會閉會後乙種ノ資本利子ニ付納稅義務アルコトヲ申出テ又ハ資本利子金額ノ増加アルコトヲ申出テタルトキハ前二項ノ規定ニ拘ラス政府ニ於テ其ノ資本利子金額ヲ決定ス

第九條 稅務署長ハ毎年乙種ノ資本利子ニ付納稅義務アリト認ムル者ノ資本利子金額ヲ調査シ其ノ調査書ヲ所得調査委員會ニ送付スヘシ  
②前項ノ規定ハ前條第二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

資本利子税法

第十條 所得稅法第五十條乃至第五十二條ノ規定ハ資本利子金額ノ決議及決定ニ付之ヲ準用ス

第十一條 第八條又ハ前條ノ規定ニ依リ乙種ノ資本利子金額ヲ決定シタルトキハ政府ハ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

第十二條 納稅義務者前條ノ規定ニ依リ政府ノ通知シタル資本利子金額ニ對シテ異議アルトキハ通知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ不服ノ事由ヲ具シ政府ニ審査ノ請求ヲ爲スコトヲ得  
②前項ノ請求アリタル場合ト雖政府ハ税金ノ徵收ヲ猶豫セス

第十三條 前條第一項ノ請求アリタルトキハ所得稅法ノ所得審査委員會ノ決議ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス  
所得稅法第五十二條及第六十一條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十四條 納稅義務者前條ノ決定ニ對シ不服アルトキハ訴願又ハ行政訴訟ヲ爲スコトヲ得

第十五條 甲種ノ資本利子ニ付テハ其ノ金額支拂ノ際



資本利子税法

支拂者其ノ資本利子税ヲ徴收シ翌月十日迄ニ之ヲ政  
府ニ納ムヘシ

乙種ノ資本利子ニ付テハ資本利子税ノ年額ヲ二分シ  
左ノ二期ニ於テ之ヲ徴收ス

第一期 其ノ年八月一日ヨリ三十一日限  
第二期 其ノ年十一月一日ヨリ三十日限

第十六條 前條第一項ノ規定ニ依リ徴收スヘキ資本利  
子税ヲ徴收セサルトキ又ハ其ノ徴收シタル税金ヲ納  
付セサルトキハ國稅徴收ノ例ニ依リ之ヲ支拂者ヨリ  
徴收ス

第十七條 乙種ノ資本利子ニ付テハ第三種ノ所得ニ對  
スル所得税ノ納税地ヲ以テ資本利子税ノ納税地トス  
第十八條 收税官吏ハ調査上必要アルトキハ資本利子  
ノ支拂ヲ受ケ又ハ其ノ支拂ヲ爲スト認ムル者ニ質問  
スルコトヲ得

第十九條 詐偽其ノ他不正ノ行爲ニ因リ資本利子税ヲ  
逃脱シタル者ハ其ノ逃脱シタル税金ノ三倍ニ相當ス  
ル罰金又ハ科料ニ處ス但シ自首シタル者又ハ稅務署

長ニ申出テタル者ハ其ノ罪ヲ問ハス

2 前項ノ場合ニ於テ乙種ノ資本利子ニ付資本利子税ヲ  
逃脱シタル者ノ資本利子金額ハ第八條第二項ノ規定  
ニ拘ラス政府ニ於テ之ヲ決定シ直ニ其ノ税金ヲ徴收ス

第二十條 資本利子ノ調査又ハ審査ノ事務ニ從事シ又  
ハ從事シタル者其ノ調査又ハ審査ニ關シ知得スル秘  
密ヲ正當ノ事由ナクシテ漏洩シタルトキハ五百圓以  
下ノ罰金ニ處ス

第二十一條 本法ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第  
三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一  
條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ  
例ヲ用ヒス但シ前條ノ罪ヲ犯シタル者ニ付テハ此ノ  
限ニ在ラス

第二十二條 府縣市町村其ノ他ノ公共團體ハ資本利子  
税ノ附加税ヲ課スルコトヲ得ス

附則

1 本法ハ大正十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

2 乙種ノ資本利子ニ付テハ大正十五年分資本利子税ヨ

〔埼玉〕

リ本法ヲ適用ス但シ大正十五年ニ限り第七條中三月  
十五日トアルハ四月三十日、第十五條中其ノ年八月  
一日ヨリ三十一日限トアルハ其ノ年九月一日ヨリ三  
十日限、第十條ノ規定ニ依ル期日五月三十一日トア  
ルハ八月三十日トス

鑛業法 抄

明治三十八年三月八日  
法律第四十五號

沿革 明治四〇年四月法律第四一號、四十二年三  
月第一〇號、四十四年三月第九號、大正十三  
年七月第二二號、昭和二年三月第三六號、  
昭和六年七月第六五號改正

第一章 總則

第一條 本法ニ於テ鑛業ト稱スルハ鑛物ノ試掘、採掘  
及之ニ附屬スル事業ヲ謂フ

第二條 本法ニ於テ鑛物ト稱スルハ金鑛、銀鑛、銅鑛  
鉛鑛、鋅鑛、錫鑛、安質母尼鑛、水銀鑛、亞鉛鑛

鑛業法 抄

〔埼玉〕

鐵鑛、硫化鐵鑛、格魯謨鐵鑛、滿俺鑛、重石鑛、水  
鉛鑛、砒鑛、燐鑛、黑鉛、石炭、亞炭石油、土瀝青  
及硫黃ヲ謂フ但シ砂鑛ハ此ノ限ニ在ラス

2 合油層ト密接ノ關係アル可燃質天然瓦斯ハ之ヲ石油  
ト看做ス但シ工業用其ノ他ノ營利ヲ目的トセスシテ  
單ニ一家ノ自用ニ供スルモノハ本法ヲ適用セス

第三條 未タ掘採セサル鑛物(廢鐵及鐵滓ヲ含ム)ハ國  
ノ所有トス

第四條 本法ニ於テ鑛業權ト稱スルハ試掘權及採掘權  
ヲ謂フ  
2 鑛業權者ハ鑛區ニ於テ其ノ許可ヲ受ケタル鑛物ヲ採  
掘シ及之ヲ取得スル權利ヲ有ス但シ鑛區ノ重複シタ  
ル場合ニ於テハ鑛業權者ハ互ニ其ノ權利ヲ制限セラル

第十三條 本法ニ於テ鑛業税ト稱スルハ鑛區税及鑛產  
税ヲ謂フ

第二章 鑛業權

第十五條 鑛業權ハ物權トシ不動産ニ關スル規定ヲ準  
用ス但シ民法第七十七條第一項ノ規定ハ此ノ限ニ



鑛業法抄

在ラス

第十七條 鑛業權ハ相續、讓渡、滯納處分及強制執行ノ目的タルノ外權利ノ目的タルコトヲ得ス但シ探掘權ハ抵當權ノ目的ト爲スコトヲ得

第十八條 試掘權ノ存續期間ハ登録ノ日ヨリニ箇年トス  
前項ノ期間ハ鑛區ノ増減又ハ改正ノ爲變更セラルルコトナシ

第三十五條 探掘權者ハ鑛區ノハ併又ハ分割ヲ農商務大臣ニ出願スルコトヲ得鑛區ノ一部ヲ分割シテ之ヲ他ノ鑛區ニ合併セムトスルトキ亦同シ

2 抵當權ノ設定アル場合ニ於テ前項ノ出願ヲ爲サムトスルトキハ抵當權者ノ承諾及抵當權ノ順位ニ關スル協定ヲ經ヘシ

第六章 鑛業稅

第八十一條 鑛業權者ニハ鑛業稅ヲ課ス

2 金鑛、銀鑛、鉛及鐵鑛ニ付テハ鑛產稅ヲ課セス

3 自己ノ探掘シタル鑛物ト他人ヨリ取得シタル鑛物トヲ合併シ製鍊スル場合ニ於テ其ノ取得鑛物ヨリ製出

四〇六

シタル鑛產物ニ付テモ亦前項ニ同シ其ノ取得鑛物ノ數量カ自己ノ探掘シタル鑛物ノ數量ニ超過スルトキハ其ノ超過部分ヨリ製出シタル鑛產物ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第八十二條 鑛業權者ニハ其ノ鑛業ニ付營業稅及營業收益稅ヲ課セス

第八十三條 鑛區稅ハ鑛區一千坪毎ニ毎年試掘ニ付テハ三十錢、探掘ニ付テハ六十錢トス但シ一千坪未滿ハ之ヲ一千坪ト看做ス

第八十四條 鑛區稅ハ毎年十二月中ニ翌年分ヲ前納スヘシ

2 第三十五條第一項ニ依ルモノヲ除クノ外鑛業權ノ設定若ハ變更ノ登録ニ依リ新ニ負擔シ又ハ不足セル鑛區稅ニシテ其登録ノ年ニ係ルモノハ之ヲ即納スヘシ  
3 前項ニ依リ納付スヘキ鑛區稅ハ月割ヲ以テ之ヲ計算ス鑛業權ノ存續期間滿了ノ年ニ係ルモノ亦同シ

第八十五條 鑛產稅ハ鑛產物ノ價格ノ百分ノ一トス

〔註〕百分ノ一ヲ千分ノ五ニ改正サレテキルカ未

〔埼玉〕

〔埼玉〕

タ施行サレテキナイ一昭和六年七月法律第六五號參照

2 鑛產物ノ價格ハ主要ナル市場ノ平均相場ヲ標準トシ農商務大臣之ヲ告示ス其ノ告示セサルモノハ之ヲ檢定ス

第八十六條 鑛產稅ハ毎年三月中ニ前年分ヲ納付スヘシ但シ鑛業權消滅ノ場合ニ於テハ即納スヘシ

第八十七條 共同鑛業權者ノ納稅義務ハ連帶トス

第八十八條 北海道、府縣及市町村ハ鑛業稅ニ對シ各鑛產稅百分ノ十、試掘鑛區稅百分ノ三、探掘鑛區稅百分ノ七以內ノ附加稅ヲ課スルコトヲ得

2 前項ノ附加稅ノ外北海道、府縣及市町村ハ鑛業ニ對シ又ハ鑛夫、鑛產物、鑛區若ハ直接鑛業用ノ工作物、器具、機械ヲ標準トシテ課稅スルコトヲ得ス

3 前二項ノ規定ハ北海道及沖繩縣ノ「區」並「間切島」其ノ他町村ニ準スヘキモノニ之ヲ準用ス

註

第八十八條第一項ハ昭和六年七月法律第六五號ヲ以テ

砂鑛法抄

左ノ通改正サレテキルカ未タ施行サレテキナイ一該改正法律附則參照

第八十八條第一項

北海道、府縣及市町村ハ鑛業稅ニ對シ各左ノ制限内ノ附加稅ヲ課スルコトヲ得

一 北海道府縣

試掘鑛區稅

千分ノ三十

探掘鑛區稅

千分ノ七十

鑛產稅

千分ノ二百

二 市町村

試掘鑛區稅

千分ノ三十

探掘鑛區稅

千分ノ七十

鑛產稅

千分ノ二百

●砂鑛法抄

明治四十二年三月二十五日法律第十三號

第一條 本法ニ於テ砂鑛ト稱スルハ砂金、砂鐵、砂錫

四〇七



砂鑛區稅法 抄 取引所稅法 抄

四〇八  
明治四十三年三月二十四日  
法律第九號

其ノ他沖積鑛床ヲ爲シタル金屬鑛ヲ謂フ  
ニ金屬ノ廢鑛又ハ鑛滓ニシテ主務大臣ニ於テ其ノ存在  
狀態砂金ト類似スト認メタルモノハ之ヲ砂金ト看做  
ス

第二條 本法ニ於テ砂鑛業ト稱スルハ砂鑛ノ採取及之  
ニ附屬スル事業ヲ謂フ

第三條 本法ニ於テ砂鑛區ト稱スルハ砂鑛權ノ登録ヲ  
得タル土地ノ區域ヲ謂フ

第二十三條 鑛業法第五條、第六條、第七條第一項第  
二項、第十條、第十二條、第十五條第十六條第十九  
條、第二十條、第二十七條、第三十二條、第三十三  
條第一項第二項、第三十五條、第三十八條乃至第四  
十三條、第四十九條、第七十二條、第七十四條、第  
八十七條乃至第八十九條、第九十一條乃至第九十三  
條、第九十三條及第九十四條ノ規定ハ砂鑛業ニ關シテ之  
ヲ準用ス

●砂鑛區稅法 抄

〔埼玉〕

第一條 砂金採取ヲ目的トスル砂鑛權者ニハ左ノ割合  
ニ依リ毎年砂鑛區稅ヲ課ス  
河 床 砂鑛區域一町毎ニ 金三十錢  
河床ニ非サルモノ 砂鑛區域一千坪毎ニ 金三十錢  
②前項ノ場合ニ於テ一町未滿又ハ一千坪未滿ノ端數ハ  
一町又ハ一千坪トシテ計算ス  
第二條 砂鑛區稅ノ賦課徵收ニ關シテハ鑛區稅ノ賦課  
徵收ニ關スル規定ヲ準用ス  
第三條 北海道、府縣及市町村ハ砂鑛區稅ニ對シ百分  
ノ十以內ノ附加稅ヲ課スルコトヲ得

●取引所稅法 抄

大正三年三月三十一日  
法律第二十三號

第一條 取引所ニハ賣買手數料收入金額百分ノ十五ノ  
割合ニ依リ取引所營業稅ヲ課ス

〔埼玉〕

第三條 取引所營業稅ハ毎月分ヲ翌月末日迄ニ納付ス  
ヘシ但シ廢業ノトキハ直ニ之ヲ納付スヘシ  
第四條 會員組織ノ取引所ニハ取引所營業稅ヲ課セス  
第二十二條 北海道府縣及市町村ハ取引所營業稅ニ對  
シ本稅百分ノ十以內ノ附加稅ヲ課スルノ外取引所ノ  
業務ニ對シ租稅其ノ他ノ公課ヲ課スルコトヲ得ス

●都市計畫法 抄

大正八年四月五日  
法律第三十六號  
昭和六年三月現在

第四條 都市計畫委員會ノ組織、權限、費用ニ關スル  
規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム  
第六條 都市計畫事業ノ執行ニ要スル費用ハ行政官廳  
之ヲ執行スル場合ニ在リテハ國、公共團體ヲ統轄ス  
ル行政廳之ヲ執行スル場合ニ在リテハ其ノ公共團  
體、行政廳ニ非サル者之ヲ執行スル場合ニ在リテハ  
其ノ者ノ負擔トス

都市計畫法 抄

四〇九

②主務大臣必要ト認ムルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ  
都市計畫事業ニ因リ著シク利益ヲ受クル者ヲシテ其  
ノ受クル利益ノ限度ニ於テ前項ノ費用ノ全部又ハ一  
部ヲ負擔セシムルコトヲ得  
第八條 公共團體ハ第四條又ハ第六條ノ費用ニ充ツル  
爲左ノ特別稅ヲ賦課スルコトヲ得但シ府縣費ヲ市ニ  
分賦スル場合ニ於テ市カ營業稅、雜種稅又ハ家屋稅  
ヲ賦課スルトキハ主務大臣ノ許可ヲ受ケ其ノ稅率ヲ  
定ムヘシ  
一 地租割地租百分ノ九以內  
二 營業收益稅割營業收益稅百分ノ二十二以內  
三 營業稅、雜種稅又ハ家屋稅、各府縣稅十分ノ四  
以內  
四 特別地稅 賃賃價格千分ノ三・四以內  
五 其ノ他勅令ヲ以テ定ムルモノ  
②營業收益稅割ノ賦課ニ付テハ營業收益稅法第十條第  
二項ノ規定ニ依ル資本利子稅額ノ控除ヲ爲ササルモ  
ノヲ以テ營業收益稅額ト看做ス



3 特別地稅ノ賦課率ハ當該年度ノ豫算ニ於テ定メタル田畑ニ對スル地租割ノ賦課率ヲ以テ算定シタル地租割額ノ當該田畑ノ地價ニ對スル比率ヲ超ユルコトヲ得ス

4 公共團體ハ主務大臣ノ許可ヲ受ケ公共團體ノ他ノ收入ヲ以テ第四條又ハ第六條ノ費用ニ充ツルコトヲ得

附 則 (昭和六年三月三十日法律第三十號)

1 本法ハ昭和六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第八條ノ改正規定ハ昭和六年度分ヨリ之ヲ適用ス

2 昭和六年度分ニ付テハ第八條ノ改正規定中百分ノ九トアルハ百分ノ八、千分ノ三・四トアルハ千分ノ三・二トス

3 昭和六年度分ニ限り勅令ノ定ムル所ニ依リ從前ノ地租ヲ標準トシ從前ノ規定ニ依リ地租割ヲ賦課スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ特別地稅ヲ賦課スルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ從前ノ地價ヲ標準トシ從前ノ規定ニ依リ之ヲ賦課スヘシ

●都市計畫委員會官制 抄

大正八年十一月二十七日  
勅令第四百三十八號

附 則

3 地方委員會要スル費用ハ當分ノ内北海道地方費又ハ府縣ノ負擔トス

●都市計畫法施行令 抄

大正八年十一月二十八日  
勅令第四百八十二號

第九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ非サレハ都市計畫事業ニ因リ著シク利益ヲ受クル者ヲシテ事業ノ執行ニ要スル費用ヲ負擔セシムルコトヲ得ス

一 行政官廳ノ執行スル事業ニ因リ公共團體カ著シク利益ヲ受クルトキ

二 事業地ノ公共團體以外ノ公共團體ヲ又ハ上級公共團體ヲ統轄スル行政廳ニ於テ執行スル事業ニ因

〔埼玉〕

〔埼玉〕

地ハ此ノ限ニ在ラス

一 私立ノ幼稚園、小學校、中學校、高等女學校、實業學校、專門學校、高等學校及大學

二 前號ニ掲ケサル私立學校ニシテ大藏大臣ニ於テ指定シタルモノ

第二條 前條ノ規定ニ依リ地租ヲ免除スヘキ土地ハ校舍及寄宿舎、圖書館其ノ他保育又ハ教育上必要ナル附屬建物ノ敷地並運動場、實習用地其ノ他直接ニ保育又ハ教育ノ用ニ供スルモノニ限ル但シ收益ヲ生スル土地ニ付テハ大藏大臣ハ免租スヘキ區域ヲ制限スルコトヲ得

第三條 北海道府縣市區町村其ノ他ノ公共團體ハ本法ニ依リ免租セラレタル土地ニ對シ租稅其ノ他ノ公課ヲ課スルコトヲ得ス

附 則

本法ハ大正九年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

●森林法 抄

四一一

リ事業地ノ公共團體カ著シク利益ヲ受クルトキ

三 事業ニ因リ生シタル營造物カ他ノ工作物ト效用ヲ兼マルニ因リ著シク利益ヲ受クル者アルトキ又ハ其ノ營造物ヲ利用スルニ因リ著シク利益ヲ受クル者アルトキ

四 前各號ノ外都市計畫事業ニ因リ著シク利益ヲ受クル者ニシテ内務大臣ヨリ指定セラレタル者アルトキ

第十條 都市計畫法第六條第二項ノ規定ニ依リ負擔セシムル費用ノ金額及其ノ負擔方法ニ付テハ關係市町村長ノ意見ヲ聞キ都市計畫委員會ノ議ヲ經テ内務大臣之ヲ定ム

●私立學校用地免租ニ關スル件

大正八年四月五日  
法律第三十八號

第一條 左ニ掲クルモノノ用ニ供スル土地ニ付テハ納稅義務者ノ申請ニ因リ其ノ地租ヲ免除ス但シ有料借

私立學校用地免租ニ關スル件 森林法 抄



砂防法 抄

砂防法第十一條ノ地租其ノ他ノ公課減免ニ關スル件

四一二

明治四十年四月  
法律第四十三號

第十二條 本法施行以前ヨリ荒廢ニ屬シタル森林ニ付新ニ造林シタルトキハ其ノ納稅義務者ノ申請ニ依リ其ノ造林シタル部分ニ限り三十年以内地租ヲ免除スルコトヲ得  
前項ノ規定ハ原野山岳又ハ荒蕪地ニ新ニ造林シタル場合ニ之ヲ準用ス  
府縣市町村其ノ他ノ公共團體ハ前二項ニ依リ地租ヲ免セラレタル土地ニ對シ租稅其ノ他ノ公課ヲ課スルコトヲ得ス

●砂防法 抄

明治三十年三月三十日  
法律第二十九號

第二條 砂防設備ヲ要スル土地又ハ此ノ法律ニ依リ治水上砂防ノ爲一定ノ行爲ヲ禁止若ハ制限スヘキ土地ハ主務大臣之ヲ指定ス

第十一條 第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ニ對シテハ勅令ノ定ムル所ニ從ヒ地租其ノ他ノ公課ヲ減免スルコトヲ得

●砂防法第十一條ノ地租其ノ他ノ公課減免ニ關スル件

明治三十二年八月十六日  
勅令第三百七十四號

沿革 明治三十五年勅令第二百五十三號、四十二年二月第七號、四十四年十二月第二百八十八號、大正七年九月第五十一號、昭和六年四月第五十一號改正

第一條 砂防法ニ依リ一定ノ行爲ヲ禁止又ハ制限シタル土地ニ對シテハ其ノ所有者又ハ納稅義務者ノ申請ニ依リ地租ヲ免除又ハ輕減スルコトヲ得

第二條 前條ニ依リ地租ヲ免除シタル土地ニ對シテハ

〔埼玉〕

〔埼玉〕

同一ノ割合ヲ以テ地租以外ノ公課ヲ輕減ス

第三條 第一條ノ規定ニ依リ地租ノ免除又ハ輕減ヲ受ケムトスル者ハ土地ノ所在、地番、地目、地積賃賃價格及地租ノ免除ハ輕減ノ區分（輕減ニ付テハ其ノ程度共）ヲ記載シタル申請書ヲ稅務署長ニ提出スヘシ

第四條 第一條ノ規定ニ依リ地租ヲ輕減スヘキ土地ニ付テハ其ノ賃賃價格ヨリ輕減地租額ニ相當スル賃賃價格ヲ控除シタルモノヲ賃賃價格トシ前條ノ申請アリタル後ニ開始スル納期ヨリ其ノ賃賃價格ニ依リ地租ヲ徵收ス

第五條 第一條ノ規定ニ依リ地租ヲ輕減シタル土地ニ付一定ノ行爲ノ禁止又ハ制限ノ解除アリタルトキ直ニ地租法第九條第二項ノ例ニ準シ其ノ賃賃價格ヲ修正シ其ノ修正ヲ爲シタル年ノ翌年分ヨリ修正賃賃價格ニ依リ地租ヲ徵收ス

附則

1 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

郵便法 抄 電信法 抄

2 第四條ノ改正規定ハ本令施行ノ際現ニ第一條ノ規定ニ依リ地租ヲ輕減セラレタル土地ノ賃賃價格ニ付之ヲ準用ス

●郵便法 抄

明治三十三年三月十三日  
法律第五十四號

第七條 郵便専用ノ物件及現ニ郵便ノ用ニ供スル物件ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

2 郵便専用ノ物件ハ何等ノ賦課ヲ受クルコトナシ  
3 郵便物及他ノ取扱ニ必要ナル物件ハ海損ヲ分擔セス

●電信法 抄

明治三十三年三月十四日  
法律第五十九號

第一條 電信及電話ハ政府之ヲ管掌ス  
第二條 左ニ掲クル電信又ハ電話ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ私設スルコトヲ得

四一三



無線電信法 抄 水道條例 抄

四一四

- 一 一邸宅内若ハ一構内ニ於テ専用ニ供スル爲施設スルモノ
- 二 鐵道業其ノ他電信電話ノ専用ヲ必要トスル事業ノ爲施設スルモノ
- 三 公共團體ノ事務執行ノ爲一市區町村内若ハ隣接市區町村間ニ於テ公署相互間又ハ一郡市區内ニ於テ公署ト第一次監督官廳トノ間ニ施設スルモノ
- 四 電報送受ノ目的ヲ以テ一人ノ専用ニ供スル爲電信官署トノ間ニ施設スルモノ
- 五 一市區町村内若ハ隣接市區町村間ニ於テ又ハ電信電話ノ連絡ナク且第四號ニ依ルヲ不適當トスル市區町村間ニ於テ一人又ハ一營業ノ専用ニ供スル爲施設スルモノ
- 第三條 主務大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ前條ニ依リ施設シタル電信又ハ電話ヲ公衆通信又ハ軍事上必要ナル通信ノ用ニ供セシムルコトヲ得
- 前項ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ主務大臣ハ吏

- 員ヲ派遣シテ其ノ取扱ヲ爲サシムルコトヲ得
- 第十一條 電信若ハ電話専用ノ物件又ハ現ニ其ノ用ニ供スル物件ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス
- 前項専用ノ物件ハ何等ノ賦課ヲ受クルコトナシ
- 第四十三條 公衆通信又ハ第三條第一項ニ依リ現ニ軍事通信ノ用ニ供スル私設ノ電信又ハ電話ニ關シテハ第九條ヲ除クノ外本法中政府ノ施設ニ係ル電信又ハ電話ニ關スル規定ヲ準用ス

無線電信法 抄

大正四年六月二十一日  
法律第二十六條

水道條例 抄

〔埼玉〕

明治二十三年二月十二日  
法律第九號

〔埼玉〕  
ノ間ニ於ケル住宅若ハ其ノ用地ノ所有權移轉ニ關シテハ地方稅ヲ課スルコトヲ得ス

第五條 水道用地ハ國稅其ノ他ノ公課ヲ免除ス

住宅組合法 抄

大正十年四月  
法律第六十六號

產業組合法施行規則 抄

明治四十二年八月二十一日  
農商務省令第三十五號

第十一條 住宅組合ノ建設、購入若ハ住宅用地ノ取得又ハ組合員トノ間ニ於ケル住宅若ハ其ノ用地ノ所有權移轉ニ關シテハ地方稅ヲ課スルコトヲ得ス

第一條ノ八 產業組合法第六條ノ二ニ住宅ト稱スルハ主トシテ住居ノ用ニ供スル家屋及之ニ相應スル門、塙、物置、井戸其ノ他居住ノ爲必要ナル附屬設備ヲ謂フ

產業組合法 抄

明治三十三年三月七日  
法律第三十四號

第一條ノ九 產業組合法第六條ノ二ノ規定ニ依リ地方稅ノ免除ヲ受クヘキ住宅又ハ住宅用地ハ左ノ制限ニ從フコトヲ要ス但シ產業組合ノ住宅ノ建設若ハ購入又ハ住宅用地ノ取得ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第六條 產業組合ニハ所得稅、營業收益稅及營業稅ヲ課セス

一 住宅ハ一組合員ニ付一戸ニ限ル

第六條ノ二 命令ノ定ムル所ニ依ル產業組合ノ住宅ノ建設、購入若ハ住宅用地ノ取得又ハ組合ト組合員ト

二 前號ノ住宅ハ一戸ニ付家屋各階ノ床面積合計五十坪ヲ超エルコトヲ得ス但シ地方長官ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

住宅組合法 抄 產業組合法 抄 產業組合法施行規則 抄

四一五



貯蓄銀行法 抄 健康保險法 抄 罹災救助基金法 抄 救護法 抄 四一六

●貯蓄銀行法 抄

大正十年四月十四日  
法律第七十四號

第二十一條 貯蓄銀行業ヲ營ム者ニハ其ノ納付スヘキ  
營業收益税額ノ二分ノ一ヲ免除ス

●健康保險法 抄

大正十一年四月二十二日  
法律第七十號

第六十九條 保險給付トシテ支給ヲ受ケタル金品ヲ標  
準トシテ租税其ノ他ノ公課ヲ課セス

●罹災救助基金法 抄

明治三十二年三月  
法律第七十七號

第一條 府縣ハ罹災救助基金ヲ貯蓄スヘシ

第四條 府縣ハ罹災救助基金貯蓄ノ爲地租所得税(第  
種ノ所得ニ對ス)及營業税ノ附加税ヲ徵收スル場合  
ニ於テハ明治四十一年法律第三十七號ノ制限ノ外千  
分ノ十三以内ノ附加税ヲ課スルコトヲ得但シ前條ノ  
制限額ニ達シタル府縣ハ此ノ限ニ在ラス

●救護法 抄

昭和四年四月二日  
法律第三十九號

第三十一條 道府縣、市町村其ノ他ノ公共團體ハ左ニ

- 掲クル土地建物ニ對シテハ租税其ノ他ノ公課ヲ課ス  
ルコトヲ得ス但シ有料ニテ之ヲ使用セシムル者ニ對  
シテハ此ノ限ニ在ラス
- 一 主トシテ救護施設ノ用ニ供スル建物
- 二 前號ニ掲クル建物ノ敷地其ノ他主トシテ救護施  
設ノ用ニ供スル土地

●軍事救護法 抄

〔埼玉〕

大正六年七月二十日  
法律第一號

第十七條 本法ニ依リ給與ヲ受ケタル救護金品ヲ標準  
トシテ租税其ノ他ノ公課ヲ課セス

●保險業法 抄

明治三十三年三月二十二日  
法律第六十九號

第九十一條 相互會社ニハ營業税ヲ課セス

●漁業法 抄

明治四十三年四月二十一日  
法律第五十八號

第四十五條 漁業組合及漁業組合聯合會ニハ所得税及  
營業税ヲ課セス

●製鐵業獎勵法(拔萃)

軍事救護法 抄 保險業法 抄 漁業法 抄 製鐵業獎勵法(拔萃) 四一七

大正十五年三月三十一日  
法律第四十九號

〔埼玉〕

第七條 北海道、府縣及市町村其ノ他之ニ準スヘキモ  
ノハ本法ニ依リ營業税、營業收益税及所得税ヲ免除  
セラレタル製鐵事業者ニ對シ其ノ免除セラレタル部  
分ニ相當スル資本金額、從業者、營業用ノ工作物若  
ハ物件、使用動力又ハ收入ヲ標準トシテ課税スルコ  
トヲ得ス但シ市町村其ノ他之ニ準スヘキモノニシテ  
特別ノ事情ニ基キ主務官廳ノ認可ヲ受ケタル場合ハ  
此ノ限ニ在ラス

(參照)

第二條 主務官廳ノ認可ヲ受ケ一定ノ期間内ニ前條ニ  
規定スル設備ヲ新設シタル製鐵事業者ニハ設備完成  
ノ年及其ノ翌年ヨリ十五年間其ノ設備ヲ以テ營ム製  
鐵事業ニ付營業税營業收益税及所得税ヲ免除ス

2 前項ノ製鐵事業者其ノ設備完成前其ノ設備ノ一部ヲ  
以テ製鐵事業ヲ營ム場合ニ於テモ其ノ事業ニ付營業  
税、營業收益税及所得税ヲ免除ス但シ前項ノ規定ニ



依ル期間内ニ設備ヲ完成セサルトキハ此ノ限ニ在ラ

ス

第三條 第一條ノ規定ニ該當セサル設備ヲ以テ製鐵事業ヲ營ム者主務官廳ノ認可ヲ受ケ一定ノ期間内ニ第一條ノ規定ニ該當スルニ至ルヘキ設備ヲ増設シタルトキハ其ノ増設シタル設備ヲ以テ營ム製鐵事業ニ付前條ノ規定ヲ準用ス

第二條ニ規定スル設備ヲ以テ製鐵事業ヲ營ム者作業上必要ナル場合ニ於テ主務官廳ノ認可ヲ受ケ一定ノ期間内ニ其ノ場所ニ於テ製鐵又ハ製鋼ノ設備ヲ増設シタルトキ亦前項ニ同シ

第四條 主務官廳ノ認可ヲ受ケ一定ノ期間内ニ一ノ場所ニ於テ一年五千二百五十瓩以上ノ製鋼能力ヲ有スル設備ヲ新設シタル製鋼品又ハ鑄鋼品製造事業者ニ付テハ第二條ノ規定ヲ準用ス

主務官廳ノ認可ヲ受ケ一定ノ期間内ニ一ノ場所ニ於テ一年二千五百瓩以上ノ製鐵能力又ハ製鋼能力ヲ有スル設備ヲ新設シタル低價鐵製造事業者、坩堝製

鋼事業者及電氣製鐵事業者ニ付亦前項ニ同シ

●農業倉庫業法 抄

大正六年七月二十一日  
法律第十五號

第十四條ノ二 農業倉庫業者ノ農業倉庫又ハ其ノ敷地ニ關スル權利ノ取得ニ關シテハ地方稅ヲ課スルコトヲ得ス

●相續稅法 抄

明治三十八年一月一日  
法律第十號

第二十六條 府縣市町村其ノ他ノ公共團體ハ相續稅ノ附加稅ヲ課スルコトヲ得ス

●酒造稅法 抄

明治二十九年三月  
法律第二十八號

第三十五條 府縣及市町村ハ此ノ法律ニ依リ造石稅ヲ

課スル酒類ニ對シ又ハ其ノ酒類ノ造石數若ハ造石稅ヲ標準トシテ府縣稅若ハ地方稅及市町村稅其ノ他如何ナル名義ヲ以テスルモ課稅スルコトヲ得ス

●船隻札規則 抄

明治四十年五月  
逓信省令第二十四號

第一條 總噸數二十噸未満又ハ積石數二百石未満ノ船ハ左ニ掲クルモノヲ除ク外日本ニ船籍港ヲ定メ船隻札ヲ受有スヘシ  
一 總噸數五噸未満又ハ積石數五十石未満ノ帆船  
二 端舟其ノ他構權ノミヲ以テ運轉シ又ハ主トシテ構權ヲ以テ運轉スル舟

●狩獵法 抄

大正七年四月四日  
法律第三十二號

第五條 狩獵免許ハ甲乙ノ二種トシ狩獵免狀ヲ下付ス

船隻札規則 抄 狩獵法 抄

〔埼玉〕

〔埼玉〕

甲種狩獵免狀ハ銃器ノ使用以外ノ方法ヲ以テ狩獵ヲ爲ス者ニ、乙種狩獵免狀ハ銃器ヲ使用シテ狩獵ヲ爲ス者ニ之ヲ下付ス

狩獵免狀ノ有効期間ハ十月十五日ヨリ翌年四月十五日迄トス但シ北海道ニ於テハ九月十五日ヨリ翌年四月十五日迄トス

主務大臣ハ特殊ノ狩獵鳥獸保護蕃殖ノ爲必要ト認ムルトキハ前項ノ期間内ニ於テ特ニ其狩獵ノ期間ヲ限定スルコトヲ得

前二項ノ期間内ニ非サレハ狩獵ヲ爲スコトヲ得ス  
第八條 狩獵免許ヲ受クル者ハ甲乙各種ニ付左ノ區別ニ從ヒ免許稅ヲ納ムヘシ  
一等 所得稅二百圓以上ヲ納ムル者又ハ其ノ家族 五十圓  
二等 所得稅ヲ納ムル者又ハ其ノ家族 三十圓  
三等 一等及二等以外ノ者 十五圓

前項ノ免許稅ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘシ

四一九



●商法(拔萃)

明治三十二年三月  
法律第四十八號

第五章 仲立營業

第三百五條 仲立人トハ他人間ノ商行爲ノ媒介ヲ爲ス  
ヲ業トスル者ヲ謂フ

第六章 問屋營業

第三百十三條 問屋トハ自己ノ名ヲ以テ他人ノ爲ニ物  
品ノ販賣又ハ買入ヲ爲スヲ業トスル者ヲ謂フ

第八章 運送營業

第三百三十一條 運送人トハ陸上又ハ湖川港灣ニ於テ  
物品又ハ旅客ノ運送ヲ爲スヲ業トスル者ヲ謂フ

●會計法(拔萃)

大正十年四月八日  
法律第四十二號

第一條 第一項政府ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始リ

翌年三月三十一日ニ終ル

第三十二條 金錢ノ給付ヲ目的トスル政府ノ權利ニ付  
消滅時効ノ中斷停止其ノ他ノ法律ニ規定ナキトキハ  
五年間之ヲ行ハサルニ因リテ消滅ス政府ニ對スル權  
利ニシテ金錢ノ給付ヲ目的トスルモノニ付亦同シ

第三十三條 金錢ノ給付ヲ目的トスル政府ノ權利ニ付  
消滅時効ノ中斷停止其ノ他ノ事項ニ關シ適用スヘキ  
他ノ法律ノ規定ナキトキハ民法ノ規定ヲ準用ス政府  
ノ權利ニシテ金錢ノ給付ヲ目的トスルモノニ付亦同  
シ

第三十四條 法令ノ規定ニ依リ政府ノ爲ス納入ノ告知  
ハ民法第五百十三條ノ規定ニ拘ラス時効中斷ノ效力  
ヲ有ス

(參照) 會計法(明治二十二年法律第四號)

第十八條 政府ノ負債ニシテ其ノ支拂フヘキ年度經過  
後滿五ケ年内ニ債主ヨリ支出ノ請求若ハ支拂ノ請求  
ヲ爲ササルモノハ期間免除トシテ政府ハ其ノ義務ヲ  
免ルルモノトス但シ特別ノ法律ヲ以テ期間免除ノ期

〔埼玉〕

〔埼玉〕

看做ス

限ヲ定メタルモノハ各々其ノ定ムル所ニ依ル  
第十九條 政府ニ納付スヘキ金額ニシテ其ノ納ムヘキ  
年度經過後滿五ケ年内ニ上納ノ告知ヲ受ケサルモノ  
ハ其ノ義務ヲ免ルルモノトス但特別ノ法律ヲ以テ期  
滿免除ノ期限ヲ定メタルモノハ各々其ノ定ムル所ニ  
依ル

●道路取締令(拔萃)

大正九年十二月十六日  
內務省令第四十五號

第十二條 荷車ノ輪帶幅ハ左ノ制限ニ從フヘシ  
牛 車 三寸五分以上、  
四輪車ニ在リテハ  
其ノ前輪ヲ後輪ノ  
二分ノ一

馬 車 三寸以上  
同上  
大 車 荷臺ノ面積十八平  
二寸以上

無限軌道其ノ他道路ヲ損傷セサル特別ノ裝置ヲ爲セ  
ル車ニ在リテハ其ノ裝置ノ幅ヲ以テ前項ノ輪帶幅ト

道路取締令(拔萃) 國稅ノ納稅告知書ニ府縣稅市區町村稅併記  
認可ニ關スル件

四二一

●國稅ノ納稅告知書ニ府縣稅市  
區町村稅併記認可ニ關スル件

大正二年五月八日  
大藏省訓令第九號

- 1 國稅徵收法施行細則第三號書式備考第六號ニ依リ納  
稅告知書ニ他ノ稅金ノ併記ヲ認可スルハ前三年間各  
種ノ國稅、北海道地方稅、府縣稅、市區町村稅ヲ通  
シ各納期限迄ニ完納アリタル市町村ニシテ之カ併記  
ヲ爲スモ納人ニ納稅上ノ苦痛ヲ與ヘサルモノト認ム  
ル場合ニ限ルヘシ
- 2 前項ノ認可ヲ爲シタル後其ノ市町村ニ於テ滯納ノ弊  
ヲ生シタルトキハ其ノ認可ヲ取消スヘシ
- 3 前二項ニ依リ認可又ハ取消ヲ爲シタルトキハ其ノ旨  
申報スヘシ



府縣稅滯納處分受託事務取扱者一覽

昭和八年四月一日現在

道府縣名		北海 道		青 森
區	市	町	村	部
取	長	支	知	全
扱	官	廳	事	部
者				
所				
在				
地				
備				
考				

  

岩 手		和 神	江 膽	紫 岩	盛 岡
上 閉	東 西	賀 賀	刺 澤	波 手	岡 市
氣 上	磐 磐	賀 賀	刺 澤	波 手	岡 市
仙 伊	井 井	賀 賀	刺 澤	波 手	岡 市
郡 郡	郡 郡	郡 郡	郡 郡	郡 郡	郡 郡
遠野財務出張所長	一關財務出張所長	花卷財務出張所長	水澤財務出張所長	盛岡財務出張所長	盛岡財務出張所長
上閉伊郡遠野町	西磐井郡一關町	神賀郡花卷町	膽澤郡水澤町	(縣 岡 內) 市	

〔埼玉〕

秋 田		鹿 角	北 秋 田	山 本	南 秋 田	河 邊	由 利	仙 北	平 鹿	雄 勝
下 閉	秋 田	鹿 角	北 秋 田	山 本	南 秋 田	河 邊	由 利	仙 北	平 鹿	雄 勝
伊 支	市	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡
廳 長	事	事	事	事	事	事	事	事	事	事
二戸郡福岡町	二戸財務出張所長	鹿角郡財務出張所長	北秋田郡財務出張所長	山本郡財務出張所長	南秋田郡財務出張所長	河邊郡財務出張所長	由利郡財務出張所長	仙北郡財務出張所長	平鹿郡財務出張所長	雄勝郡財務出張所長
下閉伊郡宮古町	花輪町	鷹巣町	能代港町	土崎港町	縣廳内	本莊町	大曲町	横手町	湯澤町	山形市

〔埼玉〕



		宮城	山形					
石岩	田安郡	安伊信福	全	南西東米	飽西東鶴	北最	南西	
川瀨	村横山	達達夫烏	部	置置置澤	海田田岡	村上	村山	
郡郡	郡郡市	郡郡郡市	知	郡郡郡市	郡郡郡市	郡郡	郡郡	
須賀川稅務出張所長	郡山稅務出張所長	福島稅務出張所長	事	米澤財務出張所長	鶴岡財務出張所長	新庄財務出張所長	山形財務出張所長	
岩瀨郡須賀川町元岩瀨郡役所内	郡山市郡山警察署内	福島縣廳内		米澤市	鶴岡市	新上町	(縣廳内)	

〔埼玉〕

福島			
河豊新村朝山小駒堂熊大岡鹽村松多耶	木沼郡、堂島村、磐瀨郡、長瀨村、里村、猪苗代郡、郡	若松市、北會津郡、	
沼川郡、内、野	岩手郡、日根郡、河沼郡、磐瀨郡、長瀨村、里村、猪苗代郡、郡		
喜多方稅務出張所長	若松稅務出張所長		
耶麻郡喜多方町元耶麻郡役所内	若松市元北會津郡役所内		

〔埼玉〕



昭和田村	横川村	川口村	西谷村	原方村	東谷村	鶴川村	赤川村	尾崎村	田沼村	大沼村	新郷村	柳津村	川崎村	勝西村	金上村	下沼村	河沼村	寶坂村	岡村	村下	陸野	澤野	尾野
大瀧村	木名村	沼澤村	三谷村	西川村	三川村	中澤村	東井村	永井村	内野村	千松村	東松村	高寺村	八幡村	廣管村	宮川村	宮内村	坂	上野	野尻	谷尻	野尻	野尻	野尻
白河郡	東白川村	西																白川稅務出張所長	西白河郡白河町 元西白河郡役所内				
																		坂下稅務出張所長	河沼郡坂下町 元河沼郡役所内				

茨城

筑波郡	新治郡	北相馬郡	稻敷郡	鹿島郡	行方郡	多賀郡	那珂郡	久慈郡	東茨城郡	水戸市	南會津郡	相馬郡	雙葉郡	石城郡					
土浦稅務出張所長	龍ヶ崎稅務出張所長	麻生稅務出張所長	松原稅務出張所長	太田稅務出張所長	水戸稅務出張所長	南會津支廳長	中村稅務出張所長	富岡稅務出張所長	平稅務出張所長	石城郡平町 平警察署構内	雙葉郡高岡町 元雙葉郡役所内	相馬郡中村町 元相馬郡役所内	田島町	水戸市 (縣廳内)	太田町	松原町	行方郡麻生町	稻敷郡龍ヶ崎町	新治郡土浦町



比入川 企間越 郡郡市	北足立郡	全郡	栃木							猿結 島城郡	眞壁 西茨城郡
			足安 利蘇郡	那須郡	鹽谷郡	下都賀郡	芳賀郡	上都賀郡	河内郡		
川越稅務出張所長	浦和稅務出張所長	知事	足利稅務出張所長	大田原稅務出張所長	矢板稅務出張所長	栃木稅務出張所長	眞岡稅務出張所長	鹿沼稅務出張所長	宇都宮稅務出張所長	境稅務出張所長	下館稅務出張所長
川越市	浦和町		足利市	大田原町	矢板町	栃木町	眞岡町	鹿沼町	宇都宮市	境町	眞壁郡下館町
									市八市長取扱		

〔埼玉〕

千葉					埼玉					
山武郡	銚子市	香取郡	印旛郡	市原郡	千葉市	北葛飾郡	南葛飾郡	北埼玉郡	大里郡	秩父郡
東金稅務出張所長	銚子稅務出張所長	成田稅務出張所長	木更津稅務出張所長	船橋稅務出張所長	市長	柏壁稅務出張所長	忍稅務出張所長	熊谷稅務出張所長	秩父稅務出張所長	
山武郡東金町	銚子市	印旛郡成田町	君津郡木更津町	東葛飾郡船橋町		南埼玉郡柏壁町	忍町	大里郡熊谷町	秩父町	

〔埼玉〕



東京															
夷安房郡	東京市	八王子市	品川區	目黒區	大田區	蒲田區	世田谷區	澁谷區	中野區	杉並區	豊島區	荒川區	板橋區	足立區一圓	向島區
鴨川財務出張所長	區長	市長	荏原財務出張所長	豊多摩財務出張所長	北豊島財務出張所長	南足立財務出張所長									
安房郡鴨川町			品川區北品川三丁目	澁谷區柏木三丁目	豊島區集鴨二丁目	足立區千住一丁目									

〔埼玉〕

神奈川

神奈川																			
葛飾區	江戸區	西多摩郡一圓	南多摩郡一圓	北多摩郡一圓	横濱市	川崎市	横須賀市	久須賀郡	三浦郡	高座郡	鎌倉郡	愛甲郡	津久井郡	平塚市					
南葛飾財務出張所長	西多摩財務出張所長	南多摩財務出張所長	北多摩財務出張所長	横濱財務出張所長	川崎財務出張所長	横須賀財務出張所長	横須賀財務出張所長	藤澤財務出張所長	厚木財務出張所長	南葛飾財務出張所長	西多摩郡青梅町	八王子市寺町	北多摩郡府中町	横濱市	川崎市	横須賀市	高座郡藤澤町	愛甲郡厚木町	平塚市

〔埼玉〕



府縣稅滯納處分受託事務取扱者一覽

長野	福井		石川		富山		足柄下郡
	町	市	町	市	町	市	
北安曇郡 南安曇郡 東筑摩郡 西筑摩郡 松本市	下内郡 上内郡 下外郡 上外郡 更級郡 長野市	町	市	町	市	町	市
松本財務出張所長	長野財務出張所長	知事	市長	知事	市長	知事	市長
松本市東筑摩郡 聯合事務所内	長野市 縣廳分室						足柄下郡小田原町

〔埼玉〕

府縣稅滯納處分受託事務取扱者一覽

蒲生郡	甲賀郡	大津郡 滋賀郡 大津郡	岐阜		下伊那郡	上諏訪郡	上田郡 北佐久郡 南佐久郡 上田市
			市	町			
八幡財務出張所長	水口財務出張所長	大津財務出張所長	飛騨支廳長	知事	飯田財務出張所長	上諏訪財務出張所長	上田財務出張所長
蒲生郡八幡町	甲賀郡水口町 (元郡役所内)	滋賀縣廳内	高山町		飯田町 下伊那郡聯合事務所内	上諏訪町 諏訪郡聯合事務所内	上田市 小縣郡聯合事務所内

〔埼玉〕



滋賀		山梨		静岡		小笠原	
神崎郡	犬上郡	大田郡	伊豆郡	高島郡	全郡	賀茂郡	沼津市
彦根財務出張所長	犬上郡彦根町 (元郡役所内)	長濱財務出張所長	今津財務出張所長	下田財務出張所長	沼津財務出張所長	静岡財務出張所長	静岡縣廳内

〔埼玉〕

愛知		三重		静岡		長野	
名古屋市	其ノ他ノ市	町	村	桑名郡	西桑名町	四日市市	大字米永
濱松財務出張所長	濱松市高町	桑名財務出張所長	桑名郡西桑名町	四日市市々	大字米永	飯南郡松坂町	宇治山田市岩淵町

〔埼玉〕



大 阪		京 都								
泉北郡	豐熊郡	三島郡	堺和田市	大阪府	其ノ他ノ郡部	熊野郡 竹野郡 中野郡 與謝郡 加佐郡	京都市	南牟婁郡	各市	安志郡 阿蘇郡
鳳財務出張所長	池田財務出張所長	茨木財務出張所長	市 長	區 長	知 事	京都府財務出張所長	區 長	支 廳 長	市 長	津財務出張所長
鳳町	池田町	茨木町				中郡峰山町		木ノ本町		津市三重縣廳庶務課

〔埼玉〕

		府縣稅滯納處分受託事務取扱者一覽												
多加郡	加西郡	加東郡	美石郡	明石市	川邊郡	有馬郡	尼崎市	武庫郡	西宮市	神戸市	北河内郡	中河内郡	南河内郡	泉南郡
社務出張所主任			明石財務出張所主任	市長	伊丹財務出張所主任		市長	西宮財務出張所主任	市長	區 長	牧方財務出張所長	八尾財務出張所長	富田林財務出張所長	岸和田財務出張所長
加東郡社町			明石市		川邊郡伊丹町			西宮市			牧方町	八尾町	富田林町	岸和田市

〔埼玉〕



奈 良	兵 庫							
	全 部	三津 原名 郡郡	多永 紀上 郡郡	美出城 方石崎 郡郡郡	養朝 父來 郡郡	佐赤 用穗 郡郡	宍保 栗保 郡郡	神飾 崎磨路 郡郡市
知 事	州本 稅務出 張所主 任	柏原 稅務出 張所主 任	豐岡 稅務出 張所主 任	和田山 稅務出 張所主 任	上郡 稅務出 張所主 任	龍野 稅務出 張所主 任	姫路 稅務出 張所主 任	加古川 稅務出 張所主 任
	津名 郡州本 町	永上 郡柏原 町	城崎 郡豐岡 町	朝來 郡和田 山町	赤穂 郡上郡 町	揖保 郡龍野 町	姫路 市	加古 郡加古 川町

鳥 根	鳥 取			和 歌 山						
	日西 野伯子 郡郡市	東 伯 郡	氣八 高頭 郡郡市	東 牟婁 郡	西 牟婁 郡	日 高 郡	有 田 郡	伊 都 郡	那 賀 郡	海 草 郡市
市 町 村 長	米子 財務出 張所長	倉吉 財務出 張所長	鳥取 財務出 張所長	東牟婁 支廳長	田邊 財務出 張所長	御坊 財務出 張所長	湯淺 財務出 張所長	橋本 財務出 張所長	岩出 財務出 張所長	和歌山 財務出 張所長
	米子 市郭内	東伯 郡倉吉 町大字 仲	鳥取 市東町	新 宮 町	田 邊 町	御 坊 町	湯 淺 町	伊 都 郡橋 本町	那 賀 郡岩 出町	縣 廳 内



岡 山									
久 苦 米 田 郡 郡	眞 庭 郡	川 上 上 房 郡 郡	後 小 月 田 郡 郡	吉 淺 都 備 口 窪 郡 郡 郡	兒 島 郡	和 亦 氣 磨 郡 郡	邑 上 御 久 道 津 郡 郡 郡	阿 哲 郡	市
津 山 財 務 出 張 所 長	勝 山 財 務 出 張 所 長	高 梁 財 務 出 張 所 長	笠 岡 財 務 出 張 所 長	倉 敷 財 務 出 張 所 長	灘 崎 財 務 出 張 所 長	瀬 戸 財 務 出 張 所 長	岡 山 財 務 出 張 所 長	新 見 財 務 出 張 所 長	市 長
津 山 市	勝 山 町	上 房 郡 高 梁 町	小 田 郡 笠 岡 町	倉 敷 市	兒 島 郡 灘 崎 村	赤 磨 郡 瀬 戸 町	岡 山 縣 山 内 市	阿 哲 郡 新 見 町	

〔埼玉〕

廣 島									
高 斐 田 三 郡 郡	甲 神 芦 奴 石 品 郡 郡 郡	深 沼 安 隈 郡 郡	世 御 羅 調 郡 郡	豐 田 郡	賀 茂 郡	山 縣 郡	安 佐 安 佐 伯 藝 郡 郡 郡	市	勝 英 田 田 郡 郡
三 次 稅 務 出 張 所 長	府 中 稅 務 出 張 所 長	福 山 稅 務 出 張 所 長	尾 道 稅 務 出 張 所 長	忠 海 稅 務 出 張 所 長	西 條 稅 務 出 張 所 長	加 計 稅 務 出 張 所 長	廣 島 稅 務 出 張 所 長	市 長	勝 間 田 財 務 出 張 所 長
雙 三 郡 三 次 町	芦 品 郡 府 中 町	福 山 縣 三 之 丸 町 市	御 調 郡 栗 原 町	忠 海 町	西 條 町	加 計 町	廣 島 縣 島 内 市		勝 田 郡 勝 間 田 町

〔埼玉〕



高知	愛媛				香川	徳島		山口		比婆郡		
	其ノ他ノ市町	幡多郡	其ノ他ノ町村	(指定町村以外) 南宇和郡 北宇和郡		指定町村	市	全郡	町		市	其ノ他ノ市町
知事	幡多支廳長	知事	宇和支廳長	町村長	市長	市長	市長	市長	市長	市長	市長	市長
	中村町		宇和島市									

(末尾記載ノ通)

〔埼玉〕

福岡						市	全郡	市町村	市長
京企郡	嘉田郡	遠鞍郡	浮三郡	三八山三郡	糸早筑宗精				
上救郡	穂川郡	賀手郡	羽井倉郡	池女門瀬郡	島良紫像屋郡	福岡財務出張所長			
行橋財務出張所長	伊田財務出張所長	直方財務出張所長	甘木財務出張所長	羽犬塚財務出張所長	福岡市縣廳内				
京都郡行橋町	田川郡伊田町	直方市	共倉郡甘木町	八女郡羽犬塚町					

〔埼玉〕



長 崎										佐賀	
長崎										全 部	
支 部	支 部	支 部	支 部	支 部	支 部	支 部	支 部	支 部	支 部	支 部	知 事
長崎市	西彼杵郡	北高來郡	東彼杵郡	南高來郡	佐世保市	北浦郡内黒	島村、大野村、中里村、皆瀬、相浦村、植木村	北浦郡内佐	世保郡内佐	世保郡内佐	長崎稅務出張所長
長崎縣廳内	同 上	北高來郡 諫早町 役場	北高來郡 諫早町 役場	南高來郡 島原町 會館	佐世保市 八幡町 會堂 佐世保市 公會堂	佐世保稅務出張所長	佐世保稅務出張所長	北松浦郡 平戸町 會堂 龜岡勸業館 兼 公會堂	平戸稅務出張所長	南松浦支廳長	長崎縣廳内

〔埼玉〕

熊 本											佐賀	
熊本											全 部	
支 部	支 部	支 部	支 部	支 部	支 部	支 部	支 部	支 部	支 部	支 部	知 事	
上下縣郡	天草郡	熊本市	熊本市	玉名郡	鹿本郡	阿蘇郡	上益城郡	菊池郡	宇土郡	下益城郡	八代郡	人吉支廳長
對馬支廳長	天草支廳長	熊本稅務出張所長	熊本市新南千反畑町	高瀬稅務出張所長	山鹿稅務出張所長	內牧稅務出張所長	御船稅務出張所長	隈府稅務出張所長	隈府稅務出張所長	松橋稅務出張所長	八代稅務出張所長	隈府支廳長
嚴原町	本 渡 町	熊本新南千反畑町		高 瀬 町	山 鹿 町	內 牧 町	御 船 町	隈 府 町	隈 府 町	松 橋 町	八 代 町	隈府町

〔埼玉〕



宮崎														
宮崎市	宮崎縣一圓市	南那珂郡一圓	都城縣一圓市	西諸縣郡一圓	兒湯郡一圓	延岡一圓市	東臼杵郡一圓	西臼杵郡一圓	鹿兒島市	鹿兒島郡	日置郡	指宿郡	薩摩郡	出水郡
市長	宮崎財務出張所長	飯肥財務出張所長	都城財務出張所長	高鍋財務出張所長	延岡財務出張所長	西臼杵支廳長	鹿兒島財務出張所長	指宿財務出張所長	川内財務出張所長	出水財務出張所長				
	宮崎市	南那珂郡飯肥町	都城市	兒湯郡高鍋町	延岡市		鹿兒島市 (縣廳島内)	指宿郡指宿村	川内村	出水町				

〔埼玉〕

鹿兒島											
始良郡	肝屬郡	嚙吟郡	熊毛郡	大島郡	宮古郡	八重山郡	其ノ他ノ市町	州	府	郡	朝鮮
加治木財務出張所長	鹿屋財務出張所長	岩川財務出張所長	熊毛支廳長	大島支廳長	宮古支廳長	八重山支廳長	知事	知事	府尹	郡守	濟州郡
始良郡加治木町	鹿屋町	岩川町	西之表町	名瀬町	平良町	石垣町					濟州

〔埼玉〕



關東洲	津			留多加郡	留多加郡	留多加郡	留多加郡
	民政支署管内	其ノ他ノ郡	名鶴好郡				
民政支署管内	支廳長	支廳長	支廳長	支廳長	支廳長	支廳長	支廳長

愛媛縣ノ指定町村

越智郡	津倉村	九和村	上朝倉村	下朝倉村	日高村	大山村	東伯方村	西伯方村	魚島村	生名村
温泉郡	桑原村	西中島村	堀江村	潮見村	神和村	南吉井村	坂本村	荏原村	垣生村	余土村
	難波村	立岩村	正岡村	栗井村	五明村	伊臺村				
	田野村	千足山村	周布村	和氣村	睡野村	東中島村				
	飯岡村	垣生村	大鳥村	生石村	鈍川村					
	高津村	神戶村	中曾根村	神郷村	角野村	大生院村				
	二名村	松柏村	小富士村	別子山村	富郷村					
	中津村	柳谷村	小田町村	石山村	田渡村					
	砥部町	廣田村	上難町	北山崎村	佐禮谷村	南山崎村				
	南久米村	大川村	大谷村	宇和川村	河邊村	天神村				
	大瀬村	立川村	滿穂村	柳澤村	新谷村	三善村				
	栗津村	白瀧村	大和村	平野村	菅田村	御祓村				
	上須成村	出海村	喜多灘村							
	三梅村	二木生村	眞穴村	川上村	舌田村	喜須來村				
	三梅村	橋津村	伊方村	三机村	四ツ濱村	神松名村				

〔埼玉〕

〔埼玉〕



府縣稅滯納處分受託事務取扱者一覽

四五〇

郡市名	北蒲原郡	東宇和郡	北宇和郡
徵收事務委任町村	金塚村 南濱村 米倉村 堀越村 川東村 鴻沼村 聖籠村 木崎村 五十公野村 加治村	多田村 中筋村 高山村 貝吹村 石城村 惣川村 下宇和村 玉津村 田之筋村 溪筋村	立間尻村 二名村 下灘村 三浦村 魚南村 好藤村 愛治村 喜佐方村 立間村 成妙村 三間村
本廳直接取扱町村	乙龜松代村 龜浦村 松塚村 葛田村 佐々木村 神田村 分田村 京ヶ瀬村 岡方村 長浦村 水原町	三島村 泉村 高光村	戸島村 日根島村 遊子村

新潟縣稅徵收事務取扱市町村區分

郡市名	北蒲原郡	東宇和郡	北宇和郡
徵收事務委任町村	新飯田村 七谷村 島野村 會野村 兩川村 大橋形村	多田村 中筋村 高山村 貝吹村 石城村 惣川村 下宇和村 玉津村 田之筋村 溪筋村	立間尻村 二名村 下灘村 三浦村 魚南村 好藤村 愛治村 喜佐方村 立間村 成妙村 三間村
本廳直接取扱町村	乙龜松代村 龜浦村 松塚村 葛田村 佐々木村 神田村 分田村 京ヶ瀬村 岡方村 長浦村 水原町	三島村 泉村 高光村	戸島村 日根島村 遊子村

〔埼玉〕

郡市名	古志郡	三嶋郡	東蒲原郡	南蒲原郡	西蒲原郡	中蒲原郡
徵收事務委任町村	北谷村 上北村 下鹽谷村 上鹽谷村	黒川村 關原村 日越村 來迎寺村 相島村 島野村 出雲崎町	日出谷村 豐實村 上條村 東川村	庄大川村 大野村 長今卷村 新成村 見附町	小大井村 吉原村 中野池村 島松上村 小四合村	赤濱村 角田村 松野尾村 岩室村 彌彦村 吉田村
本廳直接取扱町村	上組村 栃尾町	寺泊町 片貝町 與板町 大河津村 西越村	場川村 三川村 下條村 西川村	三條町 大崎村 森町村 鹿峠村	坂井輪村 日內湯村 燕會根町 榊湯村	大江山村 石川山村 龜田町 集本村

〔埼玉〕

府縣稅滯納處分受託事務取扱者一覽

四五一



東頸城郡	刈羽郡	中魚沼郡	南魚沼郡	北魚沼郡		
上米山村 米山村 湯町村 八千浦村	沖大松安 見鳥代塚 村村村 菱松保 里之倉 村村村 小浦旭 黒田 村村村 牧奴山 奈川 村村村	内西山中七高鯨 郷横日柳波 村村村村村 高中中千南高 濱通鯖石澤田 村村村村村 荒刈田武上上 濱羽尻石小條 村村村村村 二北横中石 田鯖澤里黒 村村村村村	芦橋十 ヶ日 村村町 秋仙中 成田條 村村村 大上下 筒野條 村村村 外眞 丸人 村村	大中之三 崎島村村 伊上三 米田保 ヶ崎村村 籬神 神立 村村 浦湯 佐澤 村村	須川城 原井川 村村村 入田吉 廣瀨山 村村村 川山 口邊 村村 廣千 瀬田 村村	竹中東 澤野谷 村村村 東半入 竹藏東 澤金谷 村村村 東瀬荷 山芋頃 村村村 太西 田谷 村村
柿崎村 吉川村 和田村 鳥坂村	下保倉村	石柏 地崎 町町 野田村 鷯川村 北條村	田上岩 澤郷澤 村村村 水中千 澤深手 村村村 川下吉 沼船田 村村村 倉貝 野 村村	五土 十澤 村村村 城石 内打 村村村 大鹽 卷澤 村村村 東六 日町	籬小千 神谷町 村村 上堀 之内 村村村 小出 町 湯ノ 谷村	

〔埼玉〕

高田市	長岡市	新潟市	佐渡郡	岩船郡	西頸城郡	中頸城郡
高田市	長岡市	新潟市	河赤 崎泊 村村 高松 ヶ崎 村村 金岩 泉首 村村 水津 村	粟八山關 島橋邊谷 浦浦里村 村村村 大三瀨 川面波 谷村町 下猿村 海澤上 府村町 上黒村 海川上 府侯本 村村町	歌西木名 外海浦立 波村村村 市大浦磯 振野本部 村村村 小上能 瀬早生 村村町 今大能 井和生 村村村	里寺桑斐矢源大 五十野取太代 漢 公村村村村村 野水大金新黒明 村原應谷井自治 美守村村村町村 高豊直關黒旭 津有本葦江山岩 村村村町村村村 新櫛平谷杉原下 道池丸瀨野通黒 村村村村村村村
			内小新八相 海木穂幡川 府村町村村町 外羽畑二二 海茂野宮見 府村村村村村 兩眞金澤 津野澤根 町村村町 加西吉河 茂三井原 川井田 村村村	高神深 根納内 村村村 鹽西金 野神屋 村村村 中岩女 侯船川 村村村 館平 腰林 町村	青名 海立 町村 上早 路川 村村 糸魚 川町 根知 村	三上水名 郷杉上山 村村村 諏板中 訪倉郷 村村村 保泉春 倉日 村村村 有菅上 田原郷 村村村

〔埼玉〕



### 稅務事務便覽

#### 每月ノ部

事	項	期	限	市町村其他	關	係	法	規
縣稅徵收結果報告	每月三日	同	同	市町村長ヨリ稅務出張所長へ	縣稅徵收條例	第二十七條		
縣稅徵收金送納完結	同	同	同	市町村ヨリ(稅務出張所ノ照合ヲ經)縣金庫	同	第二十六條		
年稅、月稅、各稅納稅義務者ノ負擔額調定	徵收期初日前五日迄	同	同	市町村長	同	第十四條		
縣稅滯納額報告	每月五日	同	同	市町村長ヨリ稅務出張所長へ	同	第三十條		
縣稅滯納報告後ノ徵收報告	其ノ都度	同	同	同	同	第十五條		

〔埼玉〕

縣稅徵收金還付濟報告	每月三日	同	同	市町村長ヨリ稅務出張所長へ	同			
諸鑑札亡失無効報告	同五日	同	同	警察署長、市町村長ヨリ稅務出張所長	同	第四十一條		
月稅營業種稅稅	每月二十日ヨリ末日(十二月分ヲ除ク)	同	同	市町村長	同	第二十二條		
遊興稅徵收狀況	每月五日	同	同	徵收義務者ヨリ市町村長ヲ經テ稅務出張所長	縣稅遊興稅徵收條例	第三條		
同徵收金ノ拂込	每月五日	同	同	義務者ヨリ縣金庫	同	第三條		
事務執行豫定報告	每月分ヲ前月二十五日	同	同	稅務出張所長ヨリ庶務課長へ	稅務出張所事務取扱手續	第一條		
縣稅徵收結果報告	每月分十五日	同	同	同	同	第二條		
縣稅檢查成績	每月分二十日	同	同	同	同	第五條		
縣稅滯納整理狀況	同	同	同	同	同	第七條		

〔埼玉〕



隨時ノ部		事項	期限	市町村其他	關係法規
納稅義務ノ發生シタルモノ及各種課稅資料ノ通知受ケタルトキ	直ニ	市町村長ヨリ縣金庫	賦課徵收條例第十四條		
縣稅外(雜收入)送納	三〇	同稅務出張所へ	同	第二十八條	
雜收入拂込濟報告	同	同			
還付所要額報告	事實ノ生シタル月ノ翌月三日	同稅務出張所長ヲ經テ知事ニ	同		第三十八條
競馬觀覽稅徵收拂込	競馬終了ノ翌日	徵收義務者ヨリ縣金庫へ	縣稅競馬觀覽稅徵收條例	第四條	
競馬觀覽稅徵收狀況報告	毎日其ノ日分	徵收義務者ヨリ稅務出張所長へ	同	第五條	
各種功勞者表彰ノ必要アリト認めタルトキ又ハ特種ノ納稅獎勵施設シタルトキ	其ノ都度	市町村長稅務出張所長ヨリ知事	納稅獎勵規程	第三五條	

〔埼玉〕

〔埼玉〕

一月		二月		特別地稅同	
縣稅課稅標準算定通知	該當ノトキ	市町村長ヨリ納稅義務者へ	賦課徵收條例第十四條	同	同
府縣制第八條同施行令第三十條該當營業收益稅所得稅課稅歩合算定標準屆	決定ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ五日以内	市役所町村役場稅務出張所ヲ經テ知事	同	第三條	
營業稅附加稅、砂鑛稅附加稅徵收	本稅決定ノ日	市町村	賦課條例	第二條	
所得稅附加稅第三期	一月十六日ヨリ末日	市町村長	賦課徵收條例	第二十二條	
雜種稅自動車第四期	同	同	同		
地租附加稅下半年分第四期分	二月十六日ヨリ末日	市町村長ヨリ納稅義務者へ	賦課徵收條例	第二十二條	
特別地稅同	同	同	同		



三 月		所得稅附加稅第四期	三月十六日ヨリ末日	市町村長ヨリ納稅義務者へ	賦課徵收條例 第二十二條
四 月		地租附加稅上半期第一期分	四月十六日ヨリ末日限リ	市町村長ヨリ納稅義務者へ	同
		特別地稅同	同	同	同
		前年度後期分徵收交付金ノ請求	四月二十日迄	市町村長ヨリ納稅義務者へ	第三十八條ノ二
五 月		納稅組合納稅完納報告	前半年度分ヲ四月二十日迄	納稅組合長ヨリ市町村長ノ調書ヲ添付シ知事へ(稅務出張所ヲ經由)	納稅獎勵規程 第五條

〔埼玉〕

六 月		營業稅 上半期分	五月十六日ヨリ末日	市町村長	賦課徵收條例 第二十二條
		雜種稅同	同	同	同
		縣稅徵收不能者欠損處分稟請書	前年度分ヲ五月十日	稅務出張所長ヨリ知事へ	稅務出張所事務取扱手續 第十八條
七 月		地租附加稅 上半期第二期	六月十六日ヨリ末日	市町村長ヨリ納稅義務者へ	賦課徵收條例 第二十二條
		特別地稅同	同	同	同
		前年度分營業稅課稅標準報告	六月十五日	市町村長ヨリ稅務出張所長へ	同 第二十九條
		縣稅收入決算書	六月三十日	稅務出張所長ヨリ庶務課長へ	稅務出張所事務取扱手續 第十九條

〔埼玉〕



		八 月		九 月		十 月			
營業收益稅附加稅	上半期分	八月十六日ヨ	市町村長	賦課徵收條例 第二十二條	所得稅附加稅	第一期	九月十六日ヨ	市町村長	賦課徵收條例 第二十二條
家屋稅	上半期	八月十六日ヨ	市町村長	同 第二十二條	雜種稅	自動車 第二期	同	同	同 第二十二條
營業稅	下半年	五月十六日ヨ	市町村長	賦課徵收條例 第二十二條					

		十 一 月		十 二 月							
營業收益稅附加稅	下半年分	十一月十六日ヨ	市町村長	賦課徵收條例 第二十二條	納稅組合納稅完納報告	前半年度分ヲ 十月二十日	前期分ノ徵收交付金請求	十月二十日迄	市町村長ヨリ 務出張所長ヲ經テ 知事	同	第三十八條ノ二
所得稅附加稅	第二期	同	同	同	納稅組合長ヨリ 市町村長ノ調書ヲ 添付シ知事ヘ (稅務出張所經由)	納稅獎勵規程 第五條	同	同	同	同	同
家屋稅	下半年	同	同	同							



地租附加稅	下半年分 第三期	十二月一日ヨ	市町村長ヨリ納
特別地稅同	同	同	賦課徴收條例 第二十二條
月稅雜種業稅稅	同	同	同
	二十日ヨリ二	十八日	同

〔埼玉〕

●縣稅課率表

〔埼玉〕

稅目	昭和三年度	昭和四年度	昭和五年度	昭和六年度	昭和七年度	昭和八年度
地租附加稅	宅地、五五二〇 其他、三四七五〇	追加、五五二〇 追加、一、二四七五〇	宅地、五五二〇 其他、三四七五〇	宅地、五五二〇 其他、三四七五〇	宅地、五五二〇 其他、三四七五〇	宅地、五五二〇 其他、三四七五〇
特別地稅	〇、〇〇〇	追加、〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇
營業收益稅附加稅	、六六五六〇	追加、、六六五六〇	、六六五六	、六六五六	、七五四九三	、七五四九三
所得稅附加稅	、三八九六〇	、三八九六〇	、三八九六	、三八九六	、三八九六四	、三八九六四
礦業稅附加稅	、一〇〇、〇〇〇	、一〇〇、〇〇〇	、一〇〇、〇〇〇	、一〇〇、〇〇〇	、一〇〇、〇〇〇	、一〇〇、〇〇〇
砂鐵區稅附加稅	、一〇〇	、一〇〇	、一〇〇	、一〇〇	、一〇〇	、一〇〇
家屋稅	宅地、〇、三三二一五 戶數、一、五七三三三	宅地、〇、三三二一五 戶數、一、五七三三三	宅地、〇、三三二一五 戶數、一、五七三三三	宅地、〇、三三二一五 戶數、一、五七三三三	宅地、〇、三三二一五 戶數、一、五七三三三	宅地、〇、三三二一五 戶數、一、五七三三三

縣稅課率表

四六三



昭和八年九月十五日印刷  
昭和八年九月三十日發行

埼玉縣稅務關係諸規程

埼玉縣  
庶務課  
編纂

發行者兼  
尾中幾三

東京市目黒區下目黒三丁目六五九

印刷者  
稻留甚平

東京市神田區表猿樂町十五

印刷所  
三秀出版社印刷部

東京市神田區表猿樂町十五

發行所

東京市麴町區三年町一番地

三秀出版社

振替東京四三二六〇番



發行所

三武

出

地

昭和四年五月二六〇號

東京市丸の内區本町三丁目

新茶

新茶

新茶

新茶

新茶

新茶

新茶

新茶

新茶

新茶

新茶

昭和八年五月三十日發行  
印刷八並式第十百四十四號

東京市丸の内區本町三丁目



三聯出版社